

時間割コード	KB7901	ナンバリング	KB-PAA-131	科目分野	演習
開講曜日・時限	木3	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	全学共通	対象年次	2年次～4年次		
開講年度	2022年度前期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	スポーツ文化				
担当教員（ローマ字表記）	竹下 智美（Tomomi Takeshita）				
シラバス用備考	【前期】				

授業題目/Title

心身の健康科学

授業の概要/Course Overview

人は発育発達過程において、乗り越えるべき課題を有している。その課題を乗り越えるための基本条件としての心身の健康について考え、さらに今後直面するであろう健康課題について映像作品を通して考察する。公害と健康、医療と健康、疾病と健康、社会と健康、自然と健康に視点を置いて、映像作品をもとに、ディスカッションを行い省察する。

キーワード/Keyword(s)

健康、公害、医療、疾病、社会、自然、教育

到達目標/Learning Objectives

- ①心身の健康課題の基礎的なことについて理解できる。
- ②大学生として人、自然、社会、教育に広く関心を向けて生活できる。
- ③仲間との交流を通して、自己理解と他者理解を促進する。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

第1回：シラバスを用いたガイダンス。健康の概念について講義する。

【授業外学修】過去に履修した授業科目健康の概念について復習しておくこと。（1時間以上）

第2回：生命科学と健康について考える。

「映像活用学習」「グループディスカッション」出生前診断についてに基礎的知識を学び、関連映像を視聴しつつ、グループディスカッションを通して生命の選択が可能になりつつある今日において、その倫理的あり方について理解を深める。

出生前診断について、新聞やインターネット等でその実態を調べてお行くこと（1時間以上）

第3回：疾病と健康について考える。

「映像活用学習」「グループディスカッション」がんについての基礎的知識を学び、関連映像を視聴しつつ、がん患者とがん患者を取り巻く人々の生き方についてグループディスカッションし、疾病とともに生きるとはどういうことかについて考える。

がんについて、高校までに学んだ内容を復習し、新聞や書籍、インターネット等でそれらを経験した人々の実態を調べてお行くこと（1時間以上）

第4回：社会と健康について考える。

「映像活用学習」「グループディスカッション」水俣病や原発事故など、社会の発展とともに現れた健康問題についての関連映像を視聴しつつ、健康被害を受けた人々がどのように生きてきたのかを理解しつつ、科学技術の進歩と社会のあり方について考える。

【授業外学修】水俣病や原発事故について、高校までに学んだ内容を復習し、新聞や書籍インターネット等でそれらを経験した人々の実態を調べてお行くこと（1時間以上）

第5回：社会と健康について考える（その2）。

「映像活用学習」「グループディスカッション」高齢化社会と健康についての関連映像の視聴し、高齢者を取り巻く医療、施設、家族のあり方についてグループディスカッションする。

【授業外学修】高齢者を取り巻く医療、施設について、新聞や書籍インターネット等でその実態を調べてお行くこと（1時間以上）

第6回：健康教育のあり方について考える。

「映像活用学習」「グループディスカッション」健康教育についての関連映像を視聴しつつ、今日的健康管理と健康教育のあり方について理解を深める。

【授業外学修】身近で行われている健康教育について、新聞やインターネット等でその実態を調べてお行くことまた、第8回の発表に向けての準備を行うこと（2時間以上）

第7回：今日的健康問題について、各自で取り上げつつ、それら解決するための健康教育の方法を考え、発表する。

【授業外学修】各グループで選択した健康課題について事前にグループで話し合い、パワーポイントにまとめ（SNS等を活用してもよい）発表のための準備をしておくこと。（2時間以上）

第8回：今日的健康問題について、各自で取り上げつつ、それら解決するためのレクリエーションや運動の方法を考え、発表する。

【授業外学修】各グループで選択した健康課題について事前にグループで話し合い、パワーポイントにまとめ（SNS等を活用してもよい）発表のための準備をしておくこと。（2時間以上）

【アクティブ・ラーニング】

- （1）第2～6回については、それまでの学修内容を踏まえた課題に対し、グループ・ディスカッション、発表を行う。
- （2）また、毎回の授業終了時は、ミニツツペーパーによる理解度の確認を行う。

履修上の注意/Notes

本授業は、ディスカッションを中心に行いますが、そのためには事前に取り扱う内容についての基礎的知識が必要になるので、シラバスの内容について、日々関心を持ちつつ議論できるよう準備をしておくこと。また、他者の意見を耳を傾け、聴き、自分の意見を述べ、積極的に授業に参加してください。

オフィスアワーは、木曜（昼休み）事前にアポを取ること

20分以上を欠席とし、遅刻については、3回に1回を欠席とする。

情報端末の活用

講義資料がある場合はチームスにアップするので、毎回の授業時にはP Cを用意すること

成績評価基準/Evaluation criteria

A+：到達目標の3点について極めて高いレベルで達成されている。

A:到達目標の3点について高いレベル以上で達成されている。

B:到達目標の3点についておおむね以上のレベルで達成されている。

C:到達目標の3点について最低限のレベル以上において達成されている。

D:到達目標の3点のうち1点以上について全く達成されていない。

成績の評価方法/Grading

授業への参加度（発言、発言内容）：20% 8回目に行う健康問題のグループ発表：40%、各階の授業の反省（リアクションペーパー）40%

教科書/Textbook(s)

備考	教科書は使用せず、随時資料を配付します。
----	----------------------

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	チッソは私であった
著者名	緒方直人
出版社	河出出版
出版年	2020
ISBN	
教材費	

参考書2

書名	老人漂流社会 他人事ではない“老後の現実” /
著者名	NHKスペシャル取材班
出版社	主婦と生活社
出版年	2013
ISBN	
教材費	

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	<input type="radio"/>
専門分野の学力	<input type="radio"/>
課題解決能力	<input type="radio"/>
コミュニケーション力	<input checked="" type="radio"/>
実践的英語力	<input type="radio"/>
社会人としての姿勢	<input type="radio"/>
地域活性化志向	<input type="radio"/>

アクティブ・ラーニング型科目

PBL科目

地域志向科目

使用言語

実務経験のある教員による授業科目

--

実践的教育から構成される授業科目

--

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB7902	ナンバリング	KB-PAA-131	科目分野	演習
開講曜日・時限	木3	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	全学共通	対象年次	2年次～4年次		
開講年度	2022年度前期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	音楽文化				
担当教員（ローマ字表記）	藤田 文子				
シラバス用備考	【前期】				

授業題目/Title

独唱の喜び

授業の概要/Course Overview

個別指導とグループ指導を含む。アクティブ・ラーニングに即して言えば、個人的な表現と、ディスカッションなどを含んだ集団による表現活動への援助を目的に展開する授業である。個人に即して言えば、正しい発声とは何かを理解し、歌唱の基礎的なトレーニングを積み重ねることとする。また、ピアノ伴奏などとの関係性を正確に把握することとする。

キーワード/Keyword(s)

正しい発声,癖のない声,自由な呼吸,様式感,リラックス

到達目標/Learning Objectives

自分の声について理解する（話し声,歌声）。自分の興味・関心や,他者理解の上に立った自分なりの表現をすることができる。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

第1回：シラバスを用いたガイダンスと導入

講義：この授業の進め方 独唱とは何か

第2回：発声の基礎と楽譜の正しい読み方などを指導する。

演習：各個人の学習段階に応じて課題を設定し、集団での学習を踏まえて個人レッスンをする。

第3回：発声の基礎と楽譜の正しい読み方などを指導する。

演習：各個人の学習段階に応じて課題を設定し、集団での学習を踏まえて個人レッスンをする。

第4回：発声の基礎と楽譜の正しい読み方などを指導する。

演習：各個人の学習段階に応じて課題を設定し、集団での学習を踏まえて個人レッスンをする。

第5回：様々な音形をより正しくより良い声で歌えるようにする。

演習：第1回から第4回までに学んだことを基礎に,集団での学習を踏まえて個人レッスンをする。

第6回：様々な音形をより正しくより良い声で歌えるようにする。

演習：第1回から第4回までに学んだことを基礎に,集団での学習を踏まえて個人レッスンをする。

第7回：様々な音形をより正しくより良い声で歌えるようにする。

演習：第1回から第4回までに学んだことを基礎に,集団での学習を踏まえて個人レッスンをする。

第8回：発表（試験）

演習：第1回から第7回までに学んだことを基盤に、発表（試験）する。前半は伴奏合わせ,後半は試験。

【アクティブ・ラーニング】

第2回から第7回まではアクティブ・ラーニングの技法であるソクラテス式問答,ピア・インストラクション,アナリストック・チームなどの技法を用いる。

【授業外学修】

- (1)学生個人の興味・関心も考慮しながら、発声・曲の選択、個人レッスンをを行うので、十分な予習・復習が望まれる。各回の授業外学修に要する時間は90分を目安とする。
- (2)選曲に関しては、教員の持参する教材も参考にしながら、学生自身が持参することも考慮に入れていただきたい。
- (3)独唱を学修するので、健康管理に十分配慮することとする。

履修上の注意/Notes

独唱について興味・関心があることを前提に授業を展開していきます。体調をよくしておくこと。
オフィスアワー：水2限(予約すること)。定員を10名とします。

情報端末の活用

成績評価基準/Evaluation criteria

- A + : 独唱の基本的な知識と考え方を十分に修得し、さらにその表現ができています。
- A : 独唱の基本的な知識と考え方を修得し、さらにその表現ができています。
- B : 独唱の基本的な知識と考え方を概ね修得し、さらにその表現ができています。
- C : 独唱の基本的な知識と考え方について最低限の修得をしており、さらにその表現ができています。
- D : 独唱の基本的な知識と考え方が修得できておらず、さらにその表現ができていない。

成績の評価方法/Grading

第8回目のまとめで試験を兼ねた演奏会を行う(50%)、授業態度など(50%)。作品に関して理解したことを声楽技術をもって表現しようとしているかを見る。

教科書/Textbook(s)

備考	教科書は用いず、その都度必要なものを配布する。
----	-------------------------

参考書/Reference Book(s)

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	◎
専門分野の学力	◎
課題解決能力	◎
コミュニケーション力	◎
実践的英語力	
社会人としての姿勢	◎
地域活性化志向	

アクティブ・ラーニング型科目

○

PBL科目

--

地域志向科目

--

使用言語

日本語のみ

実務経験のある教員による授業科目

・高等学校現場における常勤講師経験のある教員が、その経験を活かして、今日的な課題（現場での実技指導、音楽科教育の実態等）への対応を指導する。
--

実践的教育から構成される授業科目

--

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供	受講条件等

時間割コード	KB7903	ナンバリング	KB-PAA-131	科目分野	演習
開講曜日・時限	木3	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	全学共通	対象年次	2年次～4年次		
開講年度	2022年度前期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	美術文化				
担当教員（ローマ字表記）	齋藤 芳徳				
シラバス用備考	【前期】				

授業題目/Title

AI時代の思考法（1）

授業の概要/Course Overview

モノづくり・コトづくりの思考法について学修する。
 具体的には、グループのブレインストーミング（以下、プレスト）による発想法を用いて、アイデアを創出するとともに、アイデアをデザイン（視覚化・モデリング）して、プレゼンテーションできるようにする。
 併せて、21世紀スキルを習得する。

キーワード/Keyword(s)

思考法, 発想法, AI, モノづくり, コトづくり, ブレインストーミング, アイデア, デザイン, 視覚化, モデリング, 21世紀スキル

到達目標/Learning Objectives

- ・思考法のプロセスが理解できる
- ・思考法を用いてアイデアを創出できる
- ・アイデアをデザイン（視覚化・モデリング）できる

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

- 第1回：【授業内容】ガイダンス, 思考法Aの説明
 【授業外学習】レポート作成, 思考法Aのアイデア創出（個人）
- 第2回：【授業内容】思考法Aのプレスト（グループ）, 思考法Bの説明
 【授業外学習】思考法Bのアイデア創出（個人）
- 第3回：【授業内容】思考法Bのプレスト（グループ）, 思考法Cの説明
 【授業外学習】思考法Cのアイデア創出（個人）
- 第4回：【授業内容】思考法Cのプレスト（グループ）, 思考法Dの説明
 【授業外学習】思考法Dのアイデア創出（個人）
- 第5回：【授業内容】思考法Dのプレスト（グループ）, 思考法Eの説明
 【授業外学習】思考法Eのアイデア創出（個人）
- 第6回：【授業内容】思考法Eのプレスト（グループ）, アイデアシートの説明
 【授業外学習】アイデアシートの制作（個人）
- 第7回：【授業内容】アイデアシートのプレゼンテーション
 【授業外学習】レポート作成（個人）
- 第8回：思考法(1)のまとめ

* ICTの活用：インターネット, OFFICEソフト（Word, Excel, PowerPoint, TEAMS）の利用

* 各課題でのアイデアが、既に市場で販売されていないか、必ず情報収集しておく。

* 授業外学修時間は、2時間程度を想定している。

履修上の注意/Notes

- (1) モノづくり、コトづくりに興味があること（「起業」に興味があればなお良い）
- (2) 毎回アイデアを10案程度創出するので、アイデア創出が苦にならないこと（スポーツ感覚で「脳が汗をかく」講義）
- (2) グループ作業に抵抗がないこと
- (3) グループでの実習作業になるので、各回ともに定時に出席すること
- (4) モデリング等に必要な道具や材料は、各自（各グループ）で購入する（1,000円程度～、金額は制作内容によって異なる）
- (5) オフィスアワー（木曜日11:50-12:40）
- (6) 実習の都合上、定員は15名以下

情報端末の活用

・毎回の授業時にはPCを持参すること。

成績評価基準/Evaluation criteria

- A+：思考法の基本的な知識と考え方を十分に修得し、プレゼンテーションできる。
- A：思考法の基本的な知識と考え方を修得し、プレゼンテーションできる。
- B：思考法の基本的な知識と考え方を概ね修得し、プレゼンテーションできる。
- C：思考法の基本的な知識と考え方について最低限の修得をしており、プレゼンテーションできる。
- D：思考法の基本的な知識と考え方が修得できておらず、プレゼンテーションできない。

成績の評価方法/Grading

- (1) 制作物（アイデア、レポート、等）は全て提出
- (2) 配点：アイデア60点+プレゼンテーション20点+レポート20点

教科書/Textbook(s)

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	発想法の使い方
著者名	加藤昌治著
出版社	日本経済新聞出版社
出版年	2015
ISBN	978-4532113322
教材費	860

参考書2

書名	ラクガキノート術：観察力、想像力、伝える力を高める
著者名	タムラカイ監修
出版社	榊出版社
出版年	2015

ISBN	978-4777935390
教材費	

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	
専門分野の学力	○
課題解決能力	◎
コミュニケーション力	◎
実践的英語力	
社会人としての姿勢	
地域活性化志向	

アクティブ・ラーニング型科目

PBL科目

地域志向科目

使用言語

実務経験のある教員による授業科目

実践的教育から構成される授業科目

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB7904	ナンバリング	KB-PAA-131	科目分野	演習
開講曜日・時限	木3	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	全学共通	対象年次	2年次～4年次		
開講年度	2022年度前期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	美術文化				
担当教員（ローマ字表記）	齋藤 芳徳				
シラバス用備考	【前期】				

授業題目/Title

AI時代の思考法（2）

授業の概要/Course Overview

モノづくり・コトづくりの思考法について学修する。
 具体的には、グループのブレインストーミング（以下、プレスト）による思考法を用いて、アイデアを創出するとともに、アイデアをデザイン（視覚化・モデリング）して、プレゼンテーションできるようにする。
 併せて、21世紀スキルを習得する。

キーワード/Keyword(s)

思考法, 発想法, AI, モノづくり, コトづくり, ブレインストーミング, アイデア, デザイン, 視覚化, モデリング, 21世紀スキル

到達目標/Learning Objectives

- ・思考法のプロセスが理解できる
- ・思考法を用いてアイデアを創出できる
- ・アイデアをデザイン（視覚化・モデリング）できる

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

- 第1回：【授業内容】ガイダンス, 課題の説明
 【授業外学習】レポート作成, 課題のアイデア創出①（個人）
- 第2回：【授業内容】課題のプレスト①（グループ）
 【授業外学習】課題のアイデア創出②（個人）
- 第3回：【授業内容】課題のプレスト②（グループ）
 【授業外学習】課題のアイデア創出③（個人）
- 第4回：【授業内容】課題のプレスト③（グループ）, アイデアシートの説明
 【授業外学習】アイデアシートの制作（個人）
- 第5回：【授業内容】アイデアシートのプレスト（グループ）, プレゼンシートの説明
 【授業外学習】プレゼンシートの制作①（個人）
- 第6回：【授業内容】プレゼンシートのプレスト（グループ）
 【授業外学習】プレゼンシートの制作②（個人）
- 第7回：【授業内容】プレゼンシートのプレゼンテーション
 【授業外学習】レポート作成（個人）
- 第8回：思考法(2)のまとめ

* ICTの活用：インターネット, OFFICEソフト（Word, Excel, PowerPoint, TEAMS）の利用

* 各課題でのアイデアが、既に市場で販売されていないか、必ず情報収集しておく。

* 授業外学修時間は、2時間程度を想定している。

履修上の注意/Notes

- (1) AI時代の思考法(1)を受講済みであること
- (2) モノづくり、コトづくりに興味があること(「起業」に興味があればなお良い)
- (3) 毎回アイデアを10案程度創出するので、アイデア創出が苦にならないこと(スポーツ感覚で「脳が汗をかく」講義)
- (4) グループ作業に抵抗がないこと
- (5) グループでの実習作業になるので、各回ともに定時に出席すること
- (6) モデリング等に必要な道具や材料は、各自(各グループ)で購入する(1,000円程度～、金額は制作内容によって異なる)
- (7) オフィスアワー(木曜日11:50-12:40)
- (8) 実習の都合上、定員は15名以下

情報端末の活用

・毎回の授業時にはPCを持参すること。

成績評価基準/Evaluation criteria

- A+ : 思考法の基本的な知識と考え方を十分に修得し、プレゼンテーションできる。
A : 思考法の基本的な知識と考え方を修得し、プレゼンテーションできる。
B : 思考法の基本的な知識と考え方を概ね修得し、プレゼンテーションできる。
C : 思考法の基本的な知識と考え方について最低限の修得をしておき、プレゼンテーションできる。
D : 思考法の基本的な知識と考え方が修得できておらず、プレゼンテーションできない。

成績の評価方法/Grading

- (1) 制作物(アイデア, レポート, 等)は全て提出
- (2) 配点: アイデア60点+プレゼンテーション20点+レポート20点

教科書/Textbook(s)

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	発想法の使い方
著者名	加藤昌治著
出版社	日本経済新聞出版社
出版年	2015
ISBN	978-4532113322
教材費	860

参考書2

書名	ラクガキノート術: 観察力、想像力、伝える力を高める
著者名	タムラカイ監修
出版社	柊出版社

出版年	2015
ISBN	978-4777935390
教材費	

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	
専門分野の学力	○
課題解決能力	◎
コミュニケーション力	◎
実践的英語力	
社会人としての姿勢	
地域活性化志向	

アクティブ・ラーニング型科目

PBL科目

地域志向科目

使用言語

実務経験のある教員による授業科目

実践的教育から構成される授業科目

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB7905	ナンバリング	KB-PAA-131	科目分野	演習
開講曜日・時限	木3	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	全学共通	対象年次	2年次～4年次		
開講年度	2022年度前期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	美術文化				
担当教員（ローマ字表記）	齋木 久美				
シラバス用備考	【前期】				

授業題目/Title

仮名の書に親しむ

授業の概要/Course Overview

一般に「仮名の書」とは、平安時代の仮名の書の伝統に立脚したものをさします。本授業では、仮名に関する基礎基本を学び、仮名の書の鑑賞や実技練習を行います。また和歌を題材にした作品制作やその鑑賞活動により、仮名の書の美しさや表現方法について知識を深めるようにします。

キーワード/Keyword(s)

平仮名 変体仮名 草仮名 単体 連綿 行書き 散らし書き 料紙 古筆

到達目標/Learning Objectives

基礎な学習を通して、仮名の書の基本的な書き方や鑑賞方法を習得することができる。
基本的な散らし書きの書き方を理解し作品制作ができる。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

第1回：シラバスを用いたガイダンスと講義
（ミニツツペーパー）仮名の成立や変体仮名、連綿などに関する知識を習得し、理解を深める。
第2回：仮名の線と筆使い、基本の運筆練習
（ミニツツペーパー）仮名の線の特徴を理解する。
第3回：基本の運筆練習をふまえて「いろは」を書く、変体仮名の練習
（ミニツツペーパー）仮名の字形や筆使いの特徴を理解する。
【授業外学習】変体仮名の学習 30分程度
第4回：和歌を書く
（ミニツツペーパー）変体仮名や連綿の効果について理解する。
第5回：行書きと散らし書きについて
（ミニツツペーパー）散らし書きの効果や全体の鑑賞をもとに意見交換を行う。
第6回：料紙について 散らし書きで和歌を書く
（ミニツツペーパー）散らし書きした作品の批評をもとに、意見交換を行う。
第7回：散らし書き作品の制作と鑑賞
（グループディスカッション）作品を鑑賞し、意見交換を行う。
第8回：まとめ 仮名の書の鑑賞方法や表現について再考する

【授業外学修】30分程度

- (1)授業で取り上げる変体仮名については字母や読みを確認すること。
- (2)仮名の代表的な名筆について調べ、理解を深めるようにすること。

(3)硬筆を使用して、字形や連綿の方法などの復習を行うようにすること。

履修上の注意/Notes

(1)適宜、相互批評などを行ない、鑑賞活動も行います。(2)遅刻厳禁。(3)オフィスアワー：水曜日 2 時間目
(kumi.saiki.9331@vc.ibaraki.ac.jp) (4)用具用材の費用(1000円程度)がかかります。

情報端末の活用

作品は、その画像を教務情報ポータルシステムを通じて提出すること。

成績評価基準/Evaluation criteria

- A + : 仮名の書に関する基本的な知識を十分に習得し、仮名の筆使いが表現できている。
A : 仮名の書に関する基本的な知識を習得し、仮名の筆使いが表現できている。
B : 仮名の書に関する基本的な知識をおおむね習得し、仮名の筆使いがおおむね表現できている。
C : 仮名の書に関する基本的な知識を最低限習得し、仮名の筆使いがおおむね表現できている。
D : 仮名の書に関する基本的な知識を習得できておらず、仮名の筆使いが表現できていない。

成績の評価方法/Grading

期末試験は行いません。毎回の振り返りシート(60%) いろは、散らし書きの作品(25%) レポート(15%)

教科書/Textbook(s)

教科書1

書名	梅雪かな帖
著者名	安東聖空
出版社	松林堂
出版年	1970
ISBN	
教材費	

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	書道テキスト
著者名	大東文化大学書道研究所 編
出版社	二玄社
出版年	2007
ISBN	978-4544141092
教材費	2000

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	
専門分野の学力	○
課題解決能力	
コミュニケーション力	
実践的英語力	
社会人としての姿勢	
地域活性化志向	

アクティブ・ラーニング型科目

PBL科目

地域志向科目

使用言語

実務経験のある教員による授業科目

実践的教育から構成される授業科目

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB7906	ナンバリング	KB-PAA-111	科目分野	演習
開講曜日・時限	木3	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	全学共通	対象年次	2年次～4年次		
開講年度	2022年度前期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	美術文化				
担当教員（ローマ字表記）	島田 裕之				
シラバス用備考	【前期】				

授業題目/Title

世界のアニメーション文化

授業の概要/Course Overview

絵を動かすというアニメーションの映像表現は、映画が開発された当初から様々な試みがなされてきた。それらは、国や文化により多様に分岐し現在に至っている。その様々なアニメーションを鑑賞することを通して各国の文化観や映像文化観を理解し、アニメーション文化の概要とアニメーションの多様な価値観を、ライティング・ディスカッションやブレインストーミング等により学生同士が相互理解する。

キーワード/Keyword(s)

アニメーション、文化理解、映像表現、作品解釈、作品分析、見解の交換

到達目標/Learning Objectives

アニメーション作品を通して各国の文化観や映像文化観を理解することができる
 アニメーション文化の概要を理解し、アニメーションの多様な価値観を理解することができる
 映像作品に対しての自分の見解を持つこと、また他者の見解を受けとめることができる

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

第1回【授業内容】シラバスを用いたガイダンス 国による映像文化認識の違い（授業内容）
 （映像活用授業）グループで複数の映像を鑑賞しその表現の違いについて検討する
 【授業外学修】これまでに観たアニメーション作品について作品名、年代、内容などを確認しておく

第2回【授業内容】日本のアート・アニメーション（授業内容）
 （映像活用授業）アニメーションの領域と概念・商業アニメーションとアートアニメーションについて・近年の日本アート・アニメーション
 【授業外学修】第1回目の授業内容をもとに現在視聴できる日本のアニメーションの種類、特徴、形態を検証しておく。その内容を踏まえて第2回授業では更に深く日本のアニメーションについて検証する

第3回【授業内容】アメリカのアニメーション
 （映像活用授業）アニメーション史の中でアメリカの代表的なアート系アニメーションについて
 【授業外学修】ディズニーやハリウッド製作のアニメーション映画と授業で紹介するアニメーション作品の差異について考察しておく

第4回【授業内容】フランスのアニメーション
 （映像活用授業）アニメーション史の中でフランスの代表的なアニメーション作家ポール・グリモー、ルネ・ラルー、シルヴァン・ショメ等の作品について
 【授業外学修】事前の授業で紹介されたアヌシー国際アニメーション映画祭について事前に調査しておく（映画祭の特徴、映画祭の歴史等）

第5回【授業内容】カナダのアニメーション
 （映像活用授業）カナダのアニメーション制作所カナダ国立映画制作庁（NFB）を代表する作家ノーマン・マクラレン、キャロライン・リーフ、コ・ホードマン等の作品について
 【授業外学修】カナダのアニメーション制作所カナダ国立映画制作庁（NFB）とオタワ国際アニメーション映画祭について事前に調

査しておく。授業後は、広島、アヌシー、オタワの映画祭の特徴と差異について考察する。考察内容は次時の授業でザグレブ国際アニメーション映画祭の紹介の際総合的に考察する

第6回【授業内容】クロアチアとチェコのアニメーション

(映像活用授業) アニメーション史の中でクロアチアのザグレブ・フィルムとザグレブ国際アニメーション映画祭に関わる作品とチェコの代表的なアニメーション作家イジイ・トルンカの作品について

【授業外学修】中央ヨーロッパにおけるクロアチア(旧ユーゴスロビア)とチェコ(旧チェコスロバキア)の近代史(20世紀)を概観しておく。両国の歴史とアニメーション表現との関係を授業内で検証する

第7回【授業内容】ロシアのアニメーション

(映像活用授業) アニメーション史の中でロシアの代表的なアニメーション作家ロマン・カチャーノフ、エドゥアールド・ナザーロフ、ユーリ・ノルシュテイン等の作品について

【授業外学修】ロシア(旧ソビエト連邦)の近代史(第2次世界大戦後)を概観しておく。社会主義国家体制とアニメーション表現との関係を授業内で検証する

第8回【授業内容】長編作品の鑑賞(個人活動)

(映像活用授業) 第1～7回の活動を踏まえ、作品1本を鑑賞する。

【授業外学修】授業後、これまでの学修内容を踏まえ、個人で作品分析、批評をおこない、レポートをまとめる

【授業外学修】授業で取り上げるアニメーション作品は、テレビやレンタルDVDなどで鑑賞することが難しい。

授業で取り扱う映像作品はYouTubeなどの映像配信システムの中で紹介されている場合もあるので、授業で取り上げた作品や監督作品(鑑賞した作品以外のもの)を中心に多くの作品、多種に渡る作品を各自で鑑賞しておくことが重要である。(各授業回毎60～90分程度)

同時に自分独自の鑑賞視点を持てるよう、アニメーションにとどまらず映像作品がどのように分析、解釈されているかについて映画批評等を読むことを予習復習として取り組むことが望ましい。

履修上の注意/Notes

取り上げるアニメーション作品は、現在日本で普及している商業アニメーションとは異なる作品を対象とする。いわゆるディズニーや日本のテレビアニメーションのようなエンターテインメント作品を対象としないので注意すること。

映像作品に対して積極的、能動的に理解する姿勢を持てること。自分の見解を発表できるとともに他者の見解を受けとめる姿勢を持てること。遅刻をするとその時間の作品鑑賞に影響がでるため定時に出席すること。遅刻の限度時間は特に設けないが、遅れて視聴できなかった作品はYouTubeなどの映像配信システムの中で視聴し、レポートに反映させること。

人数制限(24名)がある。

オフィスアワー: 木曜日3時間目 メールアドレス: hiro1957@vc.ibaraki.ac.jp

情報端末の活用

- ・毎回レポートをPCを使用して教務情報ポータルに提出すること
- ・講義資料は授業時に印刷物を配布する 併せて事前に教務情報ポータルでも提供する
- ・課題レポートについては、教務情報ポータルを通じて提出すること

成績評価基準/Evaluation criteria

A+: アニメーション作品を通して各国の文化観や映像文化観の基本的な知識と考え方を十分に修得し、さらにアニメーション文化の多様な価値観を理解し、映像作品に対して自分の見解を持つことができている。

A: アニメーション作品を通して各国の文化観や映像文化観の基本的な知識と考え方を修得し、さらにアニメーション文化の多様な価値観を理解し、説明できている。

B: アニメーション作品を通して各国の文化観や映像文化観の基本的な知識と考え方を概ね修得し、さらにアニメーション文化の多様な価値観について説明できている。

C: アニメーション作品を通して各国の文化観や映像文化観の基本的な知識と考え方を最低限の修得をしており、さらにアニメーション文化の多様な価値観について説明できている。

D: アニメーション作品を通して各国の文化観や映像文化観の基本的な知識と考え方が修得できておらず、さらにアニメーション文化の多様な価値観について説明ができていない。

成績の評価方法/Grading

8回目後半の期末試験は行わない。
第1回～第7回の各授業での小レポート：70点（各10点×7回）
8回目授業後にまとめる個人レポート：30点

教科書/Textbook(s)

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	世界と日本のアニメーションベスト150
著者名	
出版社	ふゅーじょんぷろだくと
出版年	2003
ISBN	
教材費	

参考書2

書名	王と鳥ースタジオジブリの原点
著者名	高畑勲 叶精二ほか
出版社	大月書店
出版年	2006
ISBN	
教材費	

参考書3

書名	『話の話』の話ーアニメーターの旅 ユーリー・ノルシュテイン
著者名	クレア・キッソン
出版社	未知谷
出版年	2008
ISBN	
教材費	

参考書4

書名	アートアニメーションの素晴らしき世界
著者名	
出版社	エスクアイアマガジンジャパン
出版年	2002
ISBN	
教材費	

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	◎
専門分野の学力	○
課題解決能力	○
コミュニケーション力	○
実践的英語力	
社会人としての姿勢	△
地域活性化志向	

アクティブ・ラーニング型科目

PBL科目

地域志向科目

使用言語

実務経験のある教員による授業科目

実践的教育から構成される授業科目

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB7921	ナンバリング	KB-PAA-131	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	金5	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	T	対象年次	2年次～4年次		
開講年度	2022年度前期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	音楽文化				
担当教員（ローマ字表記）	谷川 佳幸（Yoshiyuki TANIGAWA）				
シラバス用備考	【前期】				

授業題目/Title

オペラの世界

授業の概要/Course Overview

総合芸術と呼ばれるオペラは17世紀初頭イタリアで生まれ、芸術として磨かれると同時に、娯楽としても人気を集めます。作品の中に散りばめられた表現のための技術を知り、それをいかに発信しているのかを学びます。オペラの基本的な形から学び、近代の作品までの鑑賞の仕方を研究し、他者に伝える表現とは何かを考えます。

キーワード/Keyword(s)

オペラ、声楽技術、表現技術、台本、ラ・ボエーム、舞台語発音、演技

到達目標/Learning Objectives

作品の中に込められたメッセージを読み解くことが出来る。そのメッセージを他者に伝えるための方法を見つけることが出来る。表現者が、どこに焦点を当てているかを見抜くことが出来る。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

第1回：シラバスを用いたガイダンスと導入
（講義）
この授業の進め方。オペラが誕生するまで、オペラが本番を迎えるまでの稽古について

第2回：オペラの基本的な形について1
（映像活用学習）
ドニゼッティ作曲「ランメルモールのルチア」を中心に声楽技術の発展と表現方法について録音、映像により解説。グループで台本と音楽について意見を出し合い、代表者が発表する

第3回：オペラの基本的な形2
（映像活用学習）
「ランメルモールのルチア」を見終え、作品が伝えようとしていたこと、演奏者や演出家が焦点としていたことをグループで話し合い代表者が発表する

第4回：「ラ・ボエーム」第1幕、第2幕
（映像活用授業）
提示された視点について注意してオペラを観る それぞれ気付いたことを後でメモする

第5回：「ラ・ボエーム」第3幕、第4幕
（映像活用授業）
提示された視点について注意してオペラを観る それぞれ気付いたことを後でメモする

第6回：喜劇作品について
第2、第3回で作品で扱った「ランメルモールのルチア」と同じ作曲家ドニゼッティの「愛の妙薬」
（ディスカッション）

グループで第4回、第5回のメモをもとに、劇の中で音楽がどういう役割を果たしているか考察する。それを基に喜劇と悲劇の作品構成について話し合う。

第7回：ロマン派後期の作品について

ブッチーニ作曲「ジャンニ・スキッキ」を鑑賞し、これまでの喜劇や悲劇の作り方との違いを考える。

(講義とディスカッション)

オペラの中でのレチタティーヴォとアリアについて解説した後、グループでこの作品の分類の仕方について話し合う。

第8回：

(発表とまとめ)

前半45分では第7回、第8回で出た意見をまとめてグループで発表。後半45分にまとめ講義と質疑応答を行う、又はレポート提出とする。

第2、3回「バズ学習」各グループで議論した後、各グループの発表を行いクラス全体としての意見をまとめる

第4、5回「ミニッツペーパー」鑑賞中は演技や音に集中して表現について探る。鑑賞後に気付いたことを書き留めておく

第6、7回「ワールドカフェ」グループで一旦意見をまとめた後、他のグループの意見を聞き、再度話し合っ発表の準備をする

各回発表では、いかにしてグループの意見を明確に伝えるか、それが表現することだという意識をもって行う

授業外学習

初回に2回目以降に扱う作品について説明をするので、そのオペラに関連する作品(原作小説や、同じ作曲家の他の作品など)について授業までに読んで見たりしておく。関連用語で不明なものは調べておくこと。

舞台作品について構成や見どころを学修したら、それ以降はテレビドラマや映画などについて類似点、相違点を意識しながら鑑賞することが必要である。特別に時間を区切った学修ではなく普段の生活の中でよく注意しておくことが望ましい。週に1度は映像作品や舞台などを60分~90分注意深く鑑賞する。

履修上の注意/Notes

まず作品を受け止める方法を身に付けることから始めますが、鑑賞するだけでなく、積極的にその表現方法について話し合うことが必要です。前半で解説をして後半で鑑賞する回やディスカッションする回がありますので、遅刻をすると全体の把握が難しくなります。できる限り定時に出席すること。遅刻2回を欠席1回とする。オフィスアワーは金曜日3講時。

情報端末の活用

全ての回をTeamsを用いて行います。授業時間内に行うのでPCでもスマートフォンでも構いませんができるだけ音質の良い状態を作ってください。

成績評価基準/Evaluation criteria

A+：	90点以上100点	到達目標を十分に達成し、きわめて優れた学修成果を上げている。
A：	80点以上90点未満	到達目標を達成し、優れた学修成果を上げている。
B：	70点以上80点未満	到達目標と学修成果を概ね達成している。
C：	60点以上70点未満	合格と認められる最低限の到達目標に届いている。
D：	60点未満	到達目標に届いておらず、再履修が必要である。

成績の評価方法/Grading

最終回での発表とレポートにより、到達目標の3つの観点から評価する。それぞれ関連したことなので、各観点到個別の配点は決めず総合的に評価するが、おおよそメッセージの読み解き(30%)、他者に伝える(40%)、表現者の焦点の見抜き(30%)とする。

教科書/Textbook(s)

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	オペラ対訳ライブラリー「ラ・ボエーム」
著者名	小瀬村幸子
出版社	音楽之友社
出版年	2014
ISBN	1921073019005
教材費	1900

参考書2

書名	新イタリアオペラ史
著者名	水谷彰良
出版社	音楽之友社
出版年	2015
ISBN	9784276110410
教材費	2750

参考書3

書名	オペラ対訳ライブラリー「愛の妙薬」
著者名	坂本鉄男
出版社	音楽之友社
出版年	2014
ISBN	9784276355736
教材費	1600

参考書4

書名	オペラ対訳ライブラリー「ランメルモールのルチア」
著者名	坂本鉄男
出版社	音楽之友社
出版年	2014
ISBN	9784276355729
教材費	1500

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	○
専門分野の学力	○
課題解決能力	○
コミュニケーション力	◎
実践的英語力	
社会人としての姿勢	○
地域活性化志向	

アクティブ・ラーニング型科目

○

PBL科目

--

地域志向科目

--

使用言語

日本語

実務経験のある教員による授業科目

--

実践的教育から構成される授業科目

--

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB0791	ナンバリング	KB-PAA-131	科目分野	演習
開講曜日・時限	金6	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	T (フレックス)	対象年次	2年次～4年次		
開講年度	2022年度前期 共通教育 (基盤・教養・教育学部以外の教職)				
科目名	音楽文化				
担当教員 (ローマ字表記)	谷川 佳幸 (Yoshiyuki TANIGAWA)				
シラバス用備考	【前期】				

授業題目/Title

オペラの世界

授業の概要/Course Overview

総合芸術と呼ばれるオペラは17世紀初頭イタリアで生まれ、芸術として磨かれると同時に、娯楽としても人気を集めます。作品の中に散りばめられた表現のための技術を知り、それをいかに発信しているのかを学びます。オペラの基本的な形から学び、近代の作品までの鑑賞の仕方を研究し、他者に伝える表現とは何かを考えます。

キーワード/Keyword(s)

オペラ、声楽技術、表現技術、台本、ラ・ボエーム、舞台語発音、演技

到達目標/Learning Objectives

作品の中に込められたメッセージを読み解くことが出来る。そのメッセージを他者に伝えるための方法を見つけることが出来る。表現者が、どこに焦点を当てているかを見抜くことが出来る。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

第1回：シラバスを用いたガイダンスと導入

(講義)

この授業の進め方。オペラが誕生するまで、オペラが本番を迎えるまでの稽古について

第2回：オペラの基本的な形について 1

(映像活用学習)

ドニゼッティ作曲「ランメルモールのルチア」を中心に声楽技術の発展と表現方法について録音、映像により解説。グループで台本と音楽について意見を出し合い、代表者が発表する

第3回：オペラの基本的な形 2

(映像活用学習)

「ランメルモールのルチア」を見終え、作品が伝えようとしていたこと、演奏者や演出家が焦点としていたことをグループで話し合い代表者が発表する

第4回：「ラ・ボエーム」第1幕、第2幕

(映像活用授業)

提示された視点について注意してオペラを観る それぞれ気付いたことを後でメモする

第5回：「ラ・ボエーム」第3幕、第4幕

(映像活用授業)

提示された視点について注意してオペラを観る それぞれ気付いたことを後でメモする

第6回：喜劇作品について

第2、第3回で作品で扱った「ランメルモールのルチア」と同じ作曲家ドニゼッティの「愛の妙薬」

(ディスカッション)

グループで第4回、第5回のメモをもとに、劇の中で音楽がどういう役割を果たしているか考察する。それを基に喜劇と悲劇の作品構成について話し合う。

第7回：ロマン派後期の作品について

ブッチーニ作曲「ジャンニ・スキッキ」を鑑賞し、これまでの喜劇や悲劇の作り方との違いを考える。

(講義とディスカッション)

オペラの中でのレチタティーヴォとアリアについて解説した後、グループでこの作品の分類の仕方について話し合う。

第8回：

(発表とまとめ)

前半45分では第7回、第8回で出た意見をまとめてグループで発表。後半45分にまとめ講義と質疑応答を行う、又はレポート提出とする。

第2、3回「バズ学習」各グループで議論した後、各グループの発表を行いクラス全体としての意見をまとめる

第4、5回「ミニッツペーパー」鑑賞中は演技や音に集中して表現について探る。鑑賞後に気付いたことを書き留めておく

第6、7回「ワールドカフェ」グループで一旦意見をまとめた後、他のグループの意見を聞き、再度話し合っ発表の準備をする

各回発表では、いかにしてグループの意見を明確に伝えるか、それが表現することだという意識をもって行う

授業外学習

初回到2回目以降に扱う作品について説明をするので、そのオペラに関連する作品(原作小説や、同じ作曲家の他の作品など)について授業までに読んで見たりしておく。関連用語で不明なものは調べておくこと。

舞台作品について構成や見どころを学修したら、それ以降はテレビドラマや映画などについて類似点、相違点を意識しながら鑑賞することが必要である。特別に時間を区切った学修ではなく普段の生活の中でよく注意しておくことが望ましい。週に1度は映像作品や舞台などを60分~90分注意深く鑑賞する。

履修上の注意/Notes

まず作品を受け止める方法を身に付けることから始めますが、鑑賞するだけでなく、積極的にその表現方法について話し合うことが必要です。前半で解説をして後半で鑑賞する回やディスカッションする回がありますので、遅刻をすると全体の把握が難しくなります。できる限り定時に出席すること。遅刻2回を欠席1回とする。オフィスアワーは金曜日3講時。

情報端末の活用

全ての回をTeamsを用いて行います。授業時間内に行うのでPCでもスマートフォンでも構いませんができるだけ音質の良い状態を作ってください。

成績評価基準/Evaluation criteria

A+：	90点以上100点	到達目標を十分に達成し、きわめて優れた学修成果を上げている。
A：	80点以上90点未満	到達目標を達成し、優れた学修成果を上げている。
B：	70点以上80点未満	到達目標と学修成果を概ね達成している。
C：	60点以上70点未満	合格と認められる最低限の到達目標に届いている。
D：	60点未満	到達目標に届いておらず、再履修が必要である。

成績の評価方法/Grading

最終回での発表とレポートにより、到達目標の3つの観点から評価する。それぞれ関連したことなので、各観点到個別の配点は決めず総合的に評価するが、おおよそメッセージの読み解き(30%)、他者に伝える(40%)、表現者の焦点の見抜き(30%)とする。

教科書/Textbook(s)

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	オペラ対訳ライブラリー「ラ・ボエーム」
著者名	小瀬村幸子
出版社	音楽之友社
出版年	2014
ISBN	1921073019005
教材費	1900

参考書2

書名	新イタリアオペラ史
著者名	水谷彰良
出版社	音楽之友社
出版年	2015
ISBN	9784276110410
教材費	2750

参考書3

書名	オペラ対訳ライブラリー「愛の妙薬」
著者名	坂本鉄男
出版社	音楽之友社
出版年	2014
ISBN	9784276355736
教材費	1600

参考書4

書名	オペラ対訳ライブラリー「ランメルモールのルチア」
著者名	坂本鉄男
出版社	音楽之友社
出版年	2014
ISBN	9784276355729
教材費	1500

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	○
専門分野の学力	○
課題解決能力	○
コミュニケーション力	◎
実践的英語力	
社会人としての姿勢	○
地域活性化志向	

アクティブ・ラーニング型科目

○

PBL科目

--

地域志向科目

--

使用言語

日本語

実務経験のある教員による授業科目

--

実践的教育から構成される授業科目

--

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB7951	ナンバリング	KB-PAA-131	科目分野	演習
開講曜日・時限	金4	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	L P S	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2022年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	音楽文化				
担当教員（ローマ字表記）	山口 哲人				
シラバス用備考	【後期】				

授業題目/Title

音楽文化メッタ切り！音楽バカ談義

授業の概要/Course Overview

この授業は、映画・文学・漫画等、現在の芸術文化全体を見渡していかにか音が重要であるか受講生とともに激しくスルドク考えてみようではないか！？という内容です。クラシック・ゲンダイ音楽以外はさして詳しくないヤマグチが皆さんと一緒にジャズ・ロック・ポップス・レゲエからJ-pop、アニソンまで様々な音楽芸術を鑑賞し、褒めたり貶したりたりして楽しく議論しよう！

キーワード/Keyword(s)

音楽 映画 文学 漫画 芸術 クラシック 現代音楽 ジャズ ロック ポップス レゲエ J-pop アニソン

到達目標/Learning Objectives

芸術文化の中から音楽的なモノを見つけ出すことができる！

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

第一回：シラバスを用いたガイダンスと意見交換&題材収集

注：音と映像を大音量・大画面で鑑賞したり、受講生の生演奏をその場で聴くことから学んでほしいので基本的には対面授業とします（教育学部C棟＝グラウンドの近く＝4階へ集合！！）が、コロナの最大レベル“非常事態宣言発令”になってしまった場合はオンライン開催（リアルタイム配信型）になりそうです。しかしそれでうまくいか担当教員の私自身まったく自信がありませんので、「休講にして後日コロナ明けに補講」となる可能性も高いです。予備日はなるべく予定を入れずに空けておいてください。やむを得ずオンライン開催の場合はできたらヘッドホンなどを各自用意して「音」がなるべく良い音質で聴けるよう準備してください。

この授業は、受講生諸君から興味のある芸術文化メディアを訊き、鑑賞教材を決めそこから音楽的要素を抽出して批評してゆこう！という実験的なモノになる予定であるので、お集まり頂いた方の趣味傾向により毎回取り上げるお題はガラッと変わってくると思われる。以下にあげたお題はあくまでヤマグチが考えた仮のもの。例えば、昨年は受講生の関心が高かった「鬼滅の刃」の神回第19話“ヒノカミ”や「レ・ミゼラブル」「四月は君の嘘」「クレヨンしんちゃん」「美女と野獣」「ドラえもん」等を山口の少ない研究費で（笑）購入し鑑賞した。であるのでこの授業において「受講生が内容を理解しやすくするため授業内容を詳しく書くこと」と「シラバスの内容を厳守すること」には矛盾が生じるのでここではっきりと「シラバスどおりには絶対進行しないぞ！」と断言しておく！！

第二回：「雑派大魔神イバダイに降臨！迎え撃つゲンダイオンガクの巨人ジョン&ピエール」

フランク・ザッパVsジョン・ケージ&ピエール・ブーレース」ロック、ポピュラー音楽、現代音楽、ミュージック・コンクレート、ジャズ、電子音楽、R&B、ドゥーワップ、ブルース、サイケ、ハード、プログレッシヴ、ブルース、フリー・ジャズ、パンク、ニュー・ウェイヴ、レゲエ、オペラ、ディスコ変幻自在のザッパとゲンダイオンガクの二人の巨匠の聴き比べ！

第三回：熟読！！漫画から音楽は感じられるか！？・・・授業中に漫画を読めるなんて・・・まるで漫画喫茶だ！！

さそうあきら①「ミュージコフィリア1~5」②「マエストロ1~3」③「おくりびと」山本おさむ④「hey!!ブルースマン1~3」⑤「天上の弦1~10」山下和美⑥「コンチェルト」⑦「ノクターン」新川直司⑧「四月は君の嘘1~11」小玉ユキ⑨「坂道のアポロン1~9」⑩一色まこと「ピアノの森1~26」⑪戸田誠二「音楽と漫画と人」⑫手塚治虫「手塚治虫マンガ音楽館」⑬「ルードウィヒ・B1・2」⑭二ノ宮知子「のだめカンタービレ1~25」⑮いくえみ綾「G線上のあなたと私1~4」⑯勝田文「あのこにもらった音楽」⑰河原和音「青空エール1~19」⑱鎌谷悠希「少年ノート1~8」⑲石塚真一「BLUE GIANT 1~10・BLUE GIANT SUPREME 1~11・BLUE GIANT EXPLORER 1」⑳福山庸治「マドモアゼルモーツァルト」㉑みうらじゅん「アイデン&ティティ24歳/27歳」㉒羅川真里茂「ましろのおと1~24」㉓アミュー「この音とまれ!1~21」㉔ハロルド作石「BECK1~34」㉕浅野いにお「ソラニン1&2」㉖榎屋克優「日々ロック1~6」㉗阿久井真「青のオーケストラ1~8」ほか

第四回：爆裂音楽！・最大音量でシビレルぜ！ミミセンのご用意を！他の教室からクレームが来ても知らない・・・

「木山光」「O・メシアン」「M-A・タネジ」「チャイコフスキー"序曲1812年"」「ニールセン『より近く、神のみもとに』によるパラフレーズ」「レイフス"ヘクラ火山"」

“世界一うるさいバンドギネス記録”「マノウォー」ほか。

第五回：今回はシンミリやりますよ・・・文学から音楽は感じられないか上品に考える・・・

㊶O・S・カード「無伴奏ソナタ」㊷P・A・マキリップ「バジリスクの魔法の歌」㊸なかにし礼「長崎ぶらぶら節」㊹中田 永一「くちびるに歌を」㊺中沢けい「楽隊のうさぎ」㊻津原泰水「ブラバン」㊼藤谷治「船に乗れ!1~3」㊽「世界でいちばん美しい」㊾荒木源「オケ老人!」㊿風野潮「モデラートでいこう」㊿風野潮「ビート・キッズ—Beat Kids」㊿天野純希，大島真寿美，風野潮，川島誠，小路幸也，丁田政二郎「ぼくの歌が君に届きますように」㊿今野敏「怪物が街にやってくる」㊿西村すぐり「ぼくがバイオリンを弾く理由」㊿恩田陸「遠雷と蜂蜜」他

第六回：キミはガンダムオタクか？！

機動戦士ガンダムシリーズのBGMを一気に鑑賞、ヘトヘトへになりながら西暦1979年から宇宙世紀までの音楽の変遷をみんなで激しく考察！！

第七回：ビッグバンドの魅力！

アニメ「ルパン三世」や「カウボーイ・ビバップ」のライブ映像、映画「スウィング・ガールズ」「セッション」を観ながら熱く討論！

第八回：対決X（エックス）ジャンプ対x（ダメ）ジャンプ！！ボヨヨンロック&ニューウェイブテクノだよーん！

エックスジャンプのエックスジャンプと、筋肉少女帯のダメジャンプを徹底比較研究！その後「筋肉少女帯」「大槻ケンヂ」「三柴理」「電気グルーヴ」を聴く！ついでにアニメ「さよなら絶望先生」「戦闘妖精雪風」「うしおととら」等を観ながら「踊るダメ人間」と「モノノケダンス」を踊り最終回を飾る！

アクティブ・ラーニング要素

- ・ソクラテス式問答
- ・ディベート
- ・ブレインストーミング
- ・EQトーク
- ・発言カード
- ・ミニッツペーパー
- ・質問書法
- ・クリエイティブ・セッション
- ・映像活用学習

【授業外学修】

一日24時間（生きている間はずっと音楽が聴け、学べます。完全無音の空間があったとしても、心臓の鼓動が音楽となり得ます）。

ただし、こちらから次回授業までに何かを聴け、等という指令は一切出しません。

高等学校までに何か学修していないとこの授業を受けられぬ、というアホらしい制限も無し。

履修上の注意/Notes

毎回の授業では音楽を聴いた後、感想・意見を言ってもらったり、踊ってもらったり、自分が音楽だなぁと感じることを発表してもらったりする予定です。結構アクティブにやりますよ！授業中寝るなヨ！！そんなに高度な音楽知識を要求することはありません。遅刻は、まあ許

しますが、あんまり遅すぎると欠席とします。相談質問はオフィスアワーまたは授業の前後に。

情報端末の活用

レポート提出や学生発表はパソコン作成のデータ提出でも構いません。授業での発表は教室設置の機器の具合により（ポロイ機械だから）、接続が上手くゆかない場合もあります。発表前に受講教室で機械の具合を確認して下さい。

成績評価基準/Evaluation criteria

- A+ : オンガクの基本的な知識と考え方を十分に修得し、さらにその仕組みについて説明できている。
A : music=オンガクの基本的な知識と考え方を修得し、さらにその仕組みについて説明できている。
B : Musik=musicの基本的な知識と考え方を概ね修得し、さらにその仕組みについて説明できている。
C : музыка=Musikの基本的な知識と考え方について最低限の修得をしており、さらにその仕組みについて説明できている。
D : ■■■■■=музыкаの基本的な知識と考え方が修得できておらず、さらにその仕組みについての説明ができていない。

成績の評価方法/Grading

試験はしない。毎回終了時のアンケート&小レポート(50%)と、時々行われる音楽発表またはレポート(50%)等で成績をつけます。テストはしないが8回目の授業は行う予定です。

教科書/Textbook(s)

備考	今あなたが興味のある音全てが教科書となり得ます。
----	--------------------------

参考書/Reference Book(s)

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	△
専門分野の学力	△
課題解決能力	△
コミュニケーション力	△
実践的英語力	△
社会人としての姿勢	△
地域活性化志向	△

アクティブ・ラーニング型科目

音楽を聴く・演奏することはいつだってアクティブだと思います。

PBL科目

地域志向科目

使用言語

日本語のみ。担当教員がたまにカッコをつけて音楽用語を外国語で言ったりする程度（外国の映画をよく鑑賞したりはする＝字幕があるのでご安心を1）

実務経験のある教員による授業科目

--

実践的教育から構成される授業科目

--

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供	受講条件等

時間割コード	KB7952	ナンバリング	KB-PAA-131	科目分野	演習
開講曜日・時限	金4	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	L P S	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2022年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	美術文化				
担当教員（ローマ字表記）	島 剛（島剛）				
シラバス用備考	【後期】				

授業題目/Title

暮らしの中の美術

授業の概要/Course Overview

この授業は、パネルディスカッションと講義を交えて展開する。最初に「(今日の豊かな)暮らしの中に〈美術〉はあるか」の問いを立て、無自覚に享受しているかもしれない、美術に縁のある諸々について意識的に抽出し、それがどのような経路で私たちの生活と関わっているか、道筋を辿り、あるいは遡って考えてみる。最後に、美術的に拓かれた感性の指向性によって、各々がどのような美術作品を好みとして見出せるか、美術館を訪ねてみる。

キーワード/Keyword(s)

美術、美術館、暮らし、豊かさ、作品

到達目標/Learning Objectives

暮らしの中にある美術の役割が理解できるとともに、美術的な側面から人の暮らしの豊かさについて考察できる。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

1,シラバスを用いたガイダンスと導入

講義：この授業の進め方 美術に関係する概念や暮らしの中に展開する美術の説明

2,暮らしの中に美術はあるかー問題提起～ディスカッション

講義と演習：教員が提示する複数の課題についてディスカッションする

3,発見した暮らしの中の美術ーパネルディスカッション1

パネルディスカッション：宿題を通して学生から提起された問題について、教員の司会の下、グループの代表がパネラーとなりディスカッションする

4,発見した暮らしの中の美術ーパネルディスカッション2

パネルディスカッション：宿題を通して学生から提起された問題について、教員の司会の下、グループの代表がパネラーとなりディスカッションする

5,美術家の制作活動

講義：美術(彫刻)制作者の立場から、教員が制作活動の実際について講話する

6,7,美術館見学

(アクティブラーニング手法)美術館を訪ねて、お気に入りの作品を発見する(学外授業がある、日時は平常授業の中で知らせる、入館料を要するーその年に見学する美術館にもよるが、1,000円以内。昨年度は減免措置により免除。)

8,発見したお気に入り美術作品についてーパネルディスカッション3～まとめ

(パネルディスカッション)教員の司会の下、各グループの発表に対してディスカッションする。

授業のまとめ 再び、美術と暮らしの関係

【授業外学修】個人発表のための内容検討や、グループで行う発表内容の検討やパワーポイント作りに時間を要する。各回に必要なおおよそ

の時間数は以下のとおり。

1,ー1時間 2,ー2時間 3,4,ー1時間 5,ーなし 6,7,ー1時間 8,ーなし

履修上の注意/Notes

1)ディスカッションは積極的、能動的に参加すること。2)そのためには、自分の考えで進めた調査や発見を膨らませて議論に臨めるようにすること。3)遅刻や欠席をすると授業の展開が理解しがたくなるので、各回とも定時に出席すること。4)オフィスアワー：金曜日3講時、メールアドレスtsuyoshi.shima.prof@vc.ibaraki.ac.jp

情報端末の活用

授業及び授業外ではPCを活用する。授業ではパワーポイントによる発表を行う。

成績評価基準/Evaluation criteria

A+：暮らしの中にある美術の役割について基本的な知識と考え方を十分に修得し、さらにその仕組みについて説明できている。
A：暮らしの中にある美術の役割について基本的な知識と考え方を修得し、さらにその仕組みについて説明できている。
B：暮らしの中にある美術の役割について基本的な知識と考え方を概ね修得し、さらにその仕組みについて説明できている。
C：暮らしの中にある美術の役割について基本的な知識と考え方について最低限の修得をしており、さらにその仕組みについて説明できている。
D：暮らしの中にある美術の役割について基本的な知識と考え方が修得できておらず、さらにその仕組みについての説明ができていない。

成績の評価方法/Grading

授業中に行うパネルーとしての発表内容(50%)、及び美術館見学を通して得た知見についての発表内容(50%)を合算する。期末試験は実施しない。

教科書/Textbook(s)

備考	特になし
----	------

参考書/Reference Book(s)

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	◎
専門分野の学力	○
課題解決能力	◎
コミュニケーション力	◎
実践的英語力	
社会人としての姿勢	
地域活性化志向	

アクティブ・ラーニング型科目

○

PBL科目

○

地域志向科目

--

使用言語

日本語のみ

実務経験のある教員による授業科目

--

実践的教育から構成される授業科目

--

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等
--------	--	-------

時間割コード	KB7953	ナンバリング	KB-PAA-131	科目分野	演習
開講曜日・時限	木3	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	L P S	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2022年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	音楽文化				
担当教員（ローマ字表記）	山口 哲人				
シラバス用備考	【後期】				

授業題目/Title

新しい音楽を探す！

授業の概要/Course Overview

音楽の勉強は、厳しい修行を積み技術を修得した上で、作品を書き、演奏しなければなりません、それと同時に様々な音を聴き、何が優れた音楽になるのか判断してゆくことが大事です。この授業は、楽譜を書いたことが無く、演奏も苦手である、といった学生諸君にも音楽を体感し、表現できることを目的とします。来たれ！若き芸術家よ！！

キーワード/Keyword(s)

新しい音 探す 聴く 表す 創る 楽しい 笑いあり 涙あり

到達目標/Learning Objectives

音を聴いて、理解する（あるいは理解しようとして意味を探る）。それを自己の表現として使用出来る技術を身につける。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

以下にあげたお題はあくまでヤマグチが考えた仮のもの。例えば、去年は受講生の関心が高かった「坂本ですが？」「坂道のアポロン」「ドラえもん」「ルパン3世 ライヴ」「スイング・ガールズ」「ラ・ラ・ランド」「水戸黄門」等を山口の少ない研究費で（笑）購入し鑑賞した。であるのでこの授業において「受講学生が内容を理解しやすくするため授業内容を明確に書くこと」と「シラバスの内容を厳守すること」には矛盾が生じるのでここではっきりと「シラバスどおりには絶対進行しないぞ！」と断言しておく！！

注：音と映像を大音量・大画面で鑑賞したり、受講生の生演奏をその場で聴くことから学んでほしいので基本的には対面授業とします（教育学部C棟＝グラウンドの近く＝4階へ集合！！）が、コロナの最大レベル“非常事態宣言発令”になってしまった場合はオンライン開催（リアルタイム配信型）になりそうです。しかしそれでうまくいか担当教員の私自身まったく自信がありませんので、「休講にして後日コロナ明けに補講」となる可能性も高いです。予備日はなるべく予定を入れずに空けておいてください。やむを得ずオンライン開催の場合はできたらヘッドホンなどを各自用意して「音」がなるべく良い音質で聴けるよう準備してください。

①シラバスを用いた授業ガイダンスの実施。ゲンダイオンガクとは何か！？を説明。色々な音を積極的に聴き、さらに関心を持った方面を探求してもらうため、授業の道筋となるアンケートを行う。その後、ビンゴで音楽を創るとどうなるのか実験！（ステキな景品あり！？）

②「日常の音を聴く！！」キッチンタイマーや携帯電話を用いた音楽の創作。ホップズの「ヴォイスピース」を現代に翻訳して演奏したらば、どうなるのであろうか！？授業中なのにもかかわらず携帯をイジりながら音楽を創る！！

③「S・ライヒ&T・ライリーの音楽」ミニマル音楽の神様、ライヒの音楽を聴いたり演奏！また、ライリーのinC実演で全員陶然！！録音・録画して聴き返してみる。

- ④「恒例！秋の大カルタ大会 取るぞ動物！盗るぞ国！県！！」カルタの読み札を、もし言葉でなく音で表現したら、みんな取り札は盗ることができるのか！？爆笑実験開始！
- ⑤「映画の中の音楽Ⅰ」ファンタスティックな音楽とは？神秘的な音色・メロディとは？聴くと不思議な感じになる音楽・音とは何かを考える！
- ⑥「映画の中の音楽Ⅱ」実験的・個性的な短編映画に凝縮された音楽を発見する！ディズニーも観よう！！
- ⑦「映画の中の音楽Ⅲ」音楽とは誰のためのモノか！？誰でも音楽を演奏して楽しむ権利はあるの？音楽療法現場での音楽ってどんなもの？
- ⑧「勝手にBGM！名作映画の付随音楽を深く考察！」有名映画のワンシーンにどんな音楽が付けられているか考える。その後、エライ作曲家になったつもりで勝手に自分でBGMを変更しちゃったらどうなるのか？実験！

アクティブ・ラーニング要素

- ・ソクラテス式問答
- ・ディベート
- ・ブレインストーミング
- ・EQトーク
- ・発言カード
- ・ミニッツペーパー
- ・質問書法
- ・クリエイティブ・セッション
- ・クイズ形式授業
- ・虫食い問題
- ・映像活用学習
- ・PBL

【授業外学修】

一日24時間（生きている間はずっと音楽が聴け、学べます。完全無音の空間があったとしても、心臓の鼓動が音楽となり得ます）。ただし、こちらから次回授業までに何かを聴け、等という指令は一切出しません。高等学校までに何か学修していないとこの授業を受けられぬ、というアホらしい制限も無し。

履修上の注意/Notes

数回に一度創作発表してもらう。音を使った自己表現を多く行いますので、講義をきくだけの授業ではないことをご確認の上受講して下さい。かといって、そんなに高度な技術を要求することはありませんのでご安心を。要するに、やる気さえあれば受講可。遅刻は、まあ許しますが、あんまり遅すぎると欠席とします。相談質問はオフィスアワーまたは授業の前後に。教材、実験機器等の学生負担はありません。

情報端末の活用

レポート提出や学生発表はパソコン作成のデータ提出でも構いませんが、授業での発表は教室設置の機器の具合により（ボロい機械だから）、接続が上手くゆかない場合もあります。発表前に受講教室で機械の具合を確認して下さい。

成績評価基準/Evaluation criteria

- A+：オンガクの基本的な知識と考え方を十分に修得し、さらにその仕組みについて説明できている。
- A：music=オンガクの基本的な知識と考え方を修得し、さらにその仕組みについて説明できている。
- B：Musik=musicの基本的な知識と考え方を概ね修得し、さらにその仕組みについて説明できている。
- C：музыка=Musikの基本的な知識と考え方について最低限の修得をしており、さらにその仕組みについて説明できている。
- D：■■■■■=музыкаの基本的な知識と考え方が修得できておらず、さらにその仕組みについての説明ができていない。

成績の評価方法/Grading

試験はしない。毎回終了時のアンケート&小レポート(50%)と、時々行われる音楽発表またはレポート(50%)等で成績をつけます。
テストはしないが8回目の授業は行う予定です。

教科書/Textbook(s)

備考	アナタの周りに存在する全ての音が教科書となり得ます。その中から「聴くことができた音」が音楽となります。
----	---

参考書/Reference Book(s)

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	△
専門分野の学力	△
課題解決能力	△
コミュニケーション力	△
実践的英語力	△
社会人としての姿勢	△
地域活性化志向	△

アクティブ・ラーニング型科目

音楽を聴く・演奏することはいつだってアクティブだと思います。

PBL科目

地域志向科目

使用言語

ニホンゴノミデスヨ。担当教員がたまにカッコをつけて音楽用語を外国語で言ったりする程度（外国の映画をよく鑑賞したりはする=字幕はある）

実務経験のある教員による授業科目

実践的教育から構成される授業科目

--

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等
--------	--	-------

時間割コード	KB7955	ナンバリング	KB-PAA-131	科目分野	演習
開講曜日・時限	木3	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	L P S	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2022年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	美術文化				
担当教員（ローマ字表記）	齋木 久美				
シラバス用備考	【後期】				

授業題目/Title

仮名の書に親しむ

授業の概要/Course Overview

一般に「仮名の書」とは、平安時代の仮名の書の伝統に立脚したものをさします。本授業では、仮名に関する基礎基本を学び、仮名の書の鑑賞や実技練習を行います。また和歌を題材にした作品制作やその鑑賞活動により、仮名の書の美しさや表現方法について知識を深めるようにします。

キーワード/Keyword(s)

平仮名 変体仮名 草仮名 単体 連綿 行書き 散らし書き 料紙 古筆

到達目標/Learning Objectives

基礎な学習を通して、仮名の書の基本的な書き方や鑑賞方法を習得することができる。
基本的な散らし書きの書き方を理解し作品制作ができる。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

第1回：シラバスを用いたガイダンスと講義
（ミニツツペーパー）仮名の成立や変体仮名、連綿などに関する知識を習得し、理解を深める。
第2回：仮名の線と筆使い、基本の運筆練習
（ミニツツペーパー）仮名の線の特徴を理解する。
第3回：基本の運筆練習をふまえて「いろは」を書く、変体仮名の練習
（ミニツツペーパー）仮名の字形や筆使いの特徴を理解する。
第4回：和歌を書く
（ミニツツペーパー）変体仮名や連綿の効果について理解する。
第5回：行書きと散らし書きについて
（ミニツツペーパー）散らし書きの効果や全体の鑑賞をもとに意見交換を行う。
第6回：料紙について 散らし書きで和歌を書く
（ミニツツペーパー）散らし書きした作品の批評をもとに、意見交換を行う。
第7回：散らし書き作品の制作と鑑賞
（グループディスカッション）作品を鑑賞し、意見交換を行う。
第8回：まとめ 仮名の書の鑑賞方法や表現について再考する

【授業外学修】30分程度

- (1)授業で取り上げる変体仮名については字母や読みを確認すること。
- (2)仮名の代表的な名筆について調べ、理解を深めるようにすること。
- (3)硬筆を使用して、字形や連綿の方法などの復習を行うようにすること。

履修上の注意/Notes

(1)適宜、相互批評などを行ない、鑑賞活動も行います。(2)遅刻厳禁。(3)オフィスアワー：金曜日 3 時間目
(kumi.saiki.9331@vc.ibaraki.ac.jp) (4)用具用材の費用(1000円程度)がかかります。

情報端末の活用

作品は、その画像を教務情報ポータルシステムを通じて提出すること。

成績評価基準/Evaluation criteria

- A + : 仮名の書に関する基本的な知識を十分に習得し、仮名の筆使いが表現できている。
A : 仮名の書に関する基本的な知識を習得し、仮名の筆使いが表現できている。
B : 仮名の書に関する基本的な知識をおおむね習得し、仮名の筆使いがおおむね表現できている。
C : 仮名の書に関する基本的な知識を最低限習得し、仮名の筆使いがおおむね表現できている。
D : 仮名の書に関する基本的な知識を習得できておらず、仮名の筆使いが表現できていない。

成績の評価方法/Grading

期末試験は行いません。毎回の振り返りシート(60%) いろは、散らし書きの作品(25%) レポート(15%)

教科書/Textbook(s)

教科書1

書名	梅雪かな帖
著者名	安東聖空
出版社	松林堂
出版年	1970
ISBN	
教材費	

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	書道テキスト
著者名	大東文化大学書道研究所 編
出版社	二玄社
出版年	2007
ISBN	978-4544141092
教材費	2000

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	
----------	--

専門分野の学力	○
課題解決能力	
コミュニケーション力	
実践的英語力	
社会人としての姿勢	
地域活性化志向	

アクティブ・ラーニング型科目

PBL科目

地域志向科目

使用言語

実務経験のある教員による授業科目

実践的教育から構成される授業科目

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供	受講条件等

時間割コード	KB7956	ナンバリング	KB-PAA-131-COE	科目分野	演習
開講曜日・時限	木3	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	L P S	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2022年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	ダンス・演劇文化				
担当教員（ローマ字表記）	田中 宏明				
シラバス用備考	【後期】				

授業題目/Title

水戸芸術館で学ぶ音楽、演劇、美術

授業の概要/Course Overview

水戸芸術館の運営全体について、活動内容やその特徴を解説する。さらに世界各国の芸術文化を簡単に紹介し、それらと連動した水戸芸術館の活動を鑑賞を通じて具体的に体験する。主に水戸芸術館の各部門の学芸員が講師として授業を行う。

キーワード/Keyword(s)

水戸芸術館、音楽、演劇、美術、自主企画、専属楽団&劇団

到達目標/Learning Objectives

1990年に開館した水戸芸術館は、今や日本を代表する文化施設の一つとなっている。芸術館独自の活動内容を知り、併せて、現在の世界的な芸術文化の状況を理解する。そして、鑑賞を通じて各々が芸術文化全体についての見聞を広め、芸術に関して自分の意見が持てることを目指す。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

第1回：ガイダンスと導入：水戸芸術館に関する説明（田中）

第2回：水戸芸術館の運営と特徴

水戸芸術館副参事による講義。日本の文化施設で唯一、水戸芸術館だけが取り入れているシステムを学び、理解する。

第3回：学外授業（水戸芸術館見学と展覧会の解説・鑑賞）

水戸芸術館美術学芸員による講義。本授業のために、普段一般に公開されていない施設も特別に見学する。

第4回：水戸芸術館音楽部門の活動

（映像活用学習）

水戸芸術館音楽学芸員による講義。芸術館で開かれる音楽会がどのようにして企画されているか、どのように運営されているかなどを学ぶ。また主に映像資料を見ながら現代音楽、芸術音楽などについての講義を受ける。

第5回：水戸芸術館演劇部門の活動

水戸芸術館演劇学芸員による講義。芸術館で上演される演劇作品について学び、演劇鑑賞についての視点を養う。

第6回：学外授業（演奏会）（田中）

第7回：学外授業（演劇）（田中）

第8回：鑑賞した展覧会、演奏会、演劇の振り返り。まとめ。（田中）

（ロールプレイ）

授業担当教員による講義。これまでの学外授業で鑑賞した内容について振り返る。演奏会と演劇において、演奏者と演者からの視点、鑑賞者からの視点がどのように共通し、異なるかを考察する。

第3・6・7回では、鑑賞のポイントを踏まえたうえで実際に美術館、音楽ホール、劇場に出向き、積極的な鑑賞活動をする。日程は「水戸芸術館ホームページ」に掲載されている開催公演の中から、12月初旬から2月中旬に開催される演奏会（複数の公演の中から選択）、演劇公演（複数日程から選択）、美術展（芸術館見学日あるいは展覧期間中の他の日）を初回授業日までに案内する。

各分野の講師や演目（学外授業）の都合上、授業計画の順と異なる場合もあるが、その際はガイダンス時に知らせる。

【授業外学修】

音楽、演劇、美術の各分野ごとの学外授業（水戸芸術館での鑑賞）に向けて、チラシから得た情報を超えた知識や鑑賞のポイントをあらかじめ各自で押さえておく。鑑賞後は、その内容を自分の言葉で第三者に伝えられるようにまとめておく。各回の授業外学修に要する時間は90分程度目安とする。

履修上の注意/Notes

教科書・参考書の購入は特になし。

水戸芸術館での見学を兼ねた、音楽、演劇、美術の各分野ごとの学外授業が、開講日時以外にある。日程は初回授業日までに案内するが、あらかじめ水戸芸術館ホームページを見て、授業期間に開催される演奏会、演劇公演、美術展の日程をチェックしておくこと。出席は必須。なお学外授業時に各部門の鑑賞チケット代金が必要となる。金額は、受講生は一般料金よりも割安な、ユース（25歳以下）チケットが適用となるため、代金の総額は5100円から5900円程度となる。

情報端末の活用

8回目にアンケートを実施する予定のため、PC、スマートフォン等を持参すること。

成績評価基準/Evaluation criteria

A+ : 90点以上100点	到達目標を十分に達成し、きわめて優れた学修成果を上げている。
A : 80点以上90点未満	到達目標を達成し、優れた学修成果を上げている。
B : 70点以上80点未満	到達目標と学修成果を概ね達成している。
C : 60点以上70点未満	合格と認められる最低限の到達目標に届いている。
D : 60点未満	到達目標に届いておらず、再履修が必要である。

成績の評価方法/Grading

音楽、演劇、美術の各部門ごとに、レポート課題（A4用紙で各1枚程度）を出題。これらの各レポートの結果（100%）により成績をつける。作品の制作者、演者が何を伝えようとしているかを感じ取り、受け取ったことをどのように文章で表現しているかを見る。ただし3分の2以上の出席がないと評価の対象とならない。出欠は毎回、カードでとる。期末試験は実施しない。

教科書/Textbook(s)

備考	教科書：特になし。その都度プリントを配布する。
----	-------------------------

参考書/Reference Book(s)

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	◎
専門分野の学力	○
課題解決能力	◎
コミュニケーション力	◎
実践的英語力	
社会人としての姿勢	◎
地域活性化志向	◎

アクティブ・ラーニング型科目

○

PBL科目

--

地域志向科目

○

使用言語

日本語のみ

実務経験のある教員による授業科目

・水戸芸術館副参事、学芸員など、芸術館運営に携わっている者が、オムニバス形式により、具体的な芸術館の運営や芸術文化について講義する。
--

実践的教育から構成される授業科目

・芸術館運営者による講義や芸術館の見学を通じた実習により、芸術館運営及び芸術文化理解に関する実践的教育を行う。

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB7958	ナンバリング	KB-PAA-131	科目分野	演習
開講曜日・時限	木3	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	T A	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2022年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	音楽文化				
担当教員（ローマ字表記）	藤田 文子				
シラバス用備考	【後期】				

授業題目/Title

独唱の喜び

授業の概要/Course Overview

個別指導とグループ指導を含む。アクティブ・ラーニングに即して言えば、個人的な表現と、ディスカッションなどを含んだ集団による表現活動への援助を目的に展開する授業である。個人に即して言えば、正しい発声とは何かを理解し、歌唱の基礎的なトレーニングを積み重ねることとする。また、ピアノ伴奏などとの関係性を正確に把握することとする。

キーワード/Keyword(s)

正しい発声,癖のない声,自由な呼吸,様式感,リラックス

到達目標/Learning Objectives

自分の声について理解する（話し声,歌声）。自分の興味関心や,他者理解の上に立った自分なりの表現をすることができる。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

第1回：シラバスを用いたガイダンスと導入

講義：この授業の進め方 独唱とは何か

第2回：発声の基礎と楽譜の正しい読み方などを指導する。

演習：各個人の学習段階に応じて課題を設定し、集団での学習を踏まえて個人レッスンをする。

第3回：発声の基礎と楽譜の正しい読み方などを指導する。

演習：各個人の学習段階に応じて課題を設定し、集団での学習を踏まえて個人レッスンをする。

第4回：発声の基礎と楽譜の正しい読み方などを指導する。

演習：各個人の学習段階に応じて課題を設定し、集団での学習を踏まえて個人レッスンをする。

第5回：様々な音形をより正しくより良い声で歌えるようにする。

演習：第1回から第4回までに学んだことを基礎に,集団での学習を踏まえて個人レッスンをする。

第6回：様々な音形をより正しくより良い声で歌えるようにする。

演習：第1回から第4回までに学んだことを基礎に,集団での学習を踏まえて個人レッスンをする。

第7回：様々な音形をより正しくより良い声で歌えるようにする。

演習：第1回から第4回までに学んだことを基礎に,集団での学習を踏まえて個人レッスンをする。

第8回：発表（試験）

演習：第1回から第7回までに学んだことを基盤に、発表（試験）する。前半は伴奏合わせ,後半は試験。

基本的にオンラインによる授業とする。

【アクティブ・ラーニング】

第2回から第7回まではアクティブ・ラーニングの技法であるソクラテス式問答,ピア・インストラクション,アナリストティック・チームなどの技法を用いる。

【授業外学修】

- (1)学生個人の興味・関心も考慮しながら、発声・曲の選択、個人レッスンをを行うので、十分な予習・復習が望まれる。各回の授業外学修に要する時間は90分を目安とする。
- (2)選曲に関しては、教員の持参する教材も参考にすが、学生自身が持参することも考慮に入れることとする。
- (3)独唱を学修するので、健康管理に十分配慮することとする。

履修上の注意/Notes

独唱について興味・関心があることを前提に授業を展開していきます。体調をよくしておくこと。
オフィスアワー：水4限(予約すること)。定員を10名とします。

情報端末の活用

成績評価基準/Evaluation criteria

- A+：独唱の基本的な知識と考え方を十分に修得し、さらにその表現ができている。
- A：独唱の基本的な知識と考え方を修得し、さらにその表現ができている。
- B：独唱の基本的な知識と考え方を概ね修得し、さらにその表現ができている。
- C：独唱の基本的な知識と考え方について最低限の修得をしており、さらにその表現ができている。
- D：独唱の基本的な知識と考え方が修得できておらず、さらにその表現ができていない。

成績の評価方法/Grading

第8回目のまとめで試験を兼ねた演奏会を行う(50%)、授業態度など(50%)。作品に関して理解したことを声楽技術をもって表現しようとしているかを見る。

教科書/Textbook(s)

備考	教科書は用いず、その都度必要なものを配布する。
----	-------------------------

参考書/Reference Book(s)

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	◎
専門分野の学力	◎
課題解決能力	◎
コミュニケーション力	◎
実践的英語力	
社会人としての姿勢	◎
地域活性化志向	

アクティブ・ラーニング型科目

○

PBL科目

--

地域志向科目

--

使用言語

日本語のみ

実務経験のある教員による授業科目

・高等学校現場における常勤講師経験のある教員が、その経験を活かして、今日的な課題（現場での実技指導、音楽科教育の実態等）への対応を指導する。

実践的教育から構成される授業科目

--

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供	受講条件等	
--------	-------	--

時間割コード	KB7959	ナンバリング	KB-PAA-131	科目分野	演習
開講曜日・時限	木3	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	T A	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2022年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	美術文化				
担当教員（ローマ字表記）	島 剛（島剛）				
シラバス用備考	【後期】				

授業題目/Title

暮らしの中の美術

授業の概要/Course Overview

この授業は、パネルディスカッションと講義を交えて展開する。最初に「(今日の豊かな)暮らしの中に〈美術〉はあるか」の問いを立て、無自覚に享受しているかもしれない、美術に縁のある諸々について意識的に抽出し、それがどのような経路で私たちの生活と関わっているか、道筋を辿り、あるいは遡って考えてみる。最後に、美術的に拓かれた感性の指向性によって、各々がどのような美術作品を好みとして見出せるか、美術館を訪ねてみる。

キーワード/Keyword(s)

美術、美術館、暮らし、豊かさ、作品

到達目標/Learning Objectives

暮らしの中にある美術の役割が理解できるとともに、美術的な側面から人の暮らしの豊かさについて考察できる。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

1,シラバスを用いたガイダンスと導入

講義：この授業の進め方 美術に関係する概念や暮らしの中に展開する美術の説明

2,暮らしの中に美術はあるかー問題提起～ディスカッション

講義と演習：教員が提示する複数の課題についてディスカッションする

3,発見した暮らしの中の美術ーパネルディスカッション1

パネルディスカッション：宿題を通して学生から提起された問題について、教員の司会の下、グループの代表がパネラーとなりディスカッションする

4,発見した暮らしの中の美術ーパネルディスカッション2

パネルディスカッション：宿題を通して学生から提起された問題について、教員の司会の下、グループの代表がパネラーとなりディスカッションする

5,美術家の制作活動

講義：美術(彫刻)制作者の立場から、教員が制作活動の実際について講話する

6,7,美術館見学

(アクティブラーニング手法)美術館を訪ねて、お気に入りの作品を発見する(学外授業がある、日時は平常授業の中で知らせる、入館料を要するーその年に見学する美術館にもよるが、1,000円以内。昨年度は減免措置により免除。)

8,発見したお気に入り美術作品についてーパネルディスカッション3～まとめ

(パネルディスカッション)教員の司会の下、各グループの発表に対してディスカッションする。

授業のまとめ 再び、美術と暮らしの関係

【授業外学修】個人発表のための内容検討や、グループで行う発表内容の検討やパワーポイント作りに時間を要する。各回に必要なおおよそ

の時間数は以下のとおり。

1,ー1時間 2,ー2時間 3,4,ー1時間 5,ーなし 6,7,ー1時間 8,ーなし

履修上の注意/Notes

1)ディスカッションは積極的、能動的に参加すること。2)そのためには、自分の考えで進めた調査や発見を膨らませて議論に臨めるようにすること。3)遅刻や欠席をすると授業の展開が理解しがたくなるので、各回とも定時に出席すること。4)オフィスアワー：金曜日3講時、メールアドレスtsuyoshi.shima.prof@vc.ibaraki.ac.jp

情報端末の活用

授業及び授業外ではPCを活用する。授業ではパワーポイントによる発表を行う。

成績評価基準/Evaluation criteria

A+：暮らしの中にある美術の役割について基本的な知識と考え方を十分に修得し、さらにその仕組みについて説明できている。
A：暮らしの中にある美術の役割について基本的な知識と考え方を修得し、さらにその仕組みについて説明できている。
B：暮らしの中にある美術の役割について基本的な知識と考え方を概ね修得し、さらにその仕組みについて説明できている。
C：暮らしの中にある美術の役割について基本的な知識と考え方について最低限の修得をしており、さらにその仕組みについて説明できている。
D：暮らしの中にある美術の役割について基本的な知識と考え方が修得できておらず、さらにその仕組みについての説明ができていない。

成績の評価方法/Grading

授業中に行うパネルーとしての発表内容(50%)、及び美術館見学を通して得た知見についての発表内容(50%)を合算する。期末試験は実施しない。

教科書/Textbook(s)

備考	特になし
----	------

参考書/Reference Book(s)

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	◎
専門分野の学力	○
課題解決能力	◎
コミュニケーション力	◎
実践的英語力	
社会人としての姿勢	
地域活性化志向	

アクティブ・ラーニング型科目

○

PBL科目

○

地域志向科目

--

使用言語

日本語のみ

実務経験のある教員による授業科目

--

実践的教育から構成される授業科目

--

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等
--------	--	-------

時間割コード	KB7960	ナンバリング	KB-PAA-111	科目分野	演習
開講曜日・時限	木3	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	T A	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2022年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	美術文化				
担当教員（ローマ字表記）	島田 裕之				
シラバス用備考	【後期】				

授業題目/Title

世界のアニメーション文化

授業の概要/Course Overview

絵を動かすというアニメーションの映像表現は、映画が開発された当初から様々な試みがなされてきた。それらは、国や文化により多岐に分岐し現在に至っている。その様々なアニメーションを鑑賞することを通して各国の文化観や映像文化観を理解し、アニメーション文化の概要とアニメーションの多様な価値観を、ライティング・ディスカッションやブレインストーミング等により学生同士が相互理解する。

キーワード/Keyword(s)

アニメーション、文化理解、映像表現、作品解釈、作品分析、見解の交換

到達目標/Learning Objectives

アニメーション作品を通して各国の文化観や映像文化観を理解することができる
 アニメーション文化の概要を理解し、アニメーションの多様な価値観を理解することができる
 映像作品に対しての自分の見解を持つこと、また他者の見解を受けとめることができる

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

第1回【授業内容】シラバスを用いたガイダンス 国による映像文化認識の違い（授業内容）
 （映像活用授業）グループで複数の映像を鑑賞しその表現の違いについて検討する
 【授業外学修】これまでに観たアニメーション作品について作品名、年代、内容などを確認しておく

第2回【授業内容】日本のアート・アニメーション（授業内容）
 （映像活用授業）アニメーションの領域と概念・商業アニメーションとアートアニメーションについて・近年の日本アート・アニメーション
 【授業外学修】第1回目の授業内容をもとに現在視聴できる日本のアニメーションの種類、特徴、形態を検証しておく。その内容を踏まえて第2回授業では更に深く日本のアニメーションについて検証する

第3回【授業内容】アメリカのアニメーション
 （映像活用授業）アニメーション史の中でアメリカの代表的なアート系アニメーションについて
 【授業外学修】ディズニーやハリウッド製作のアニメーション映画と授業で紹介するアニメーション作品の差異について考察しておく

第4回【授業内容】フランスのアニメーション
 （映像活用授業）アニメーション史の中でフランスの代表的なアニメーション作家ポール・グリモー、ルネ・ラルー、シルヴァン・ショメ等の作品について
 【授業外学修】事前の授業で紹介されたアヌシー国際アニメーション映画祭について事前に調査しておく（映画祭の特徴、映画祭の歴史等）

第5回【授業内容】カナダのアニメーション
 （映像活用授業）カナダのアニメーション制作所カナダ国立映画制作庁（NFB）を代表する作家ノーマン・マクラレン、キャロライン・リーフ、コ・ホードマン等の作品について
 【授業外学修】カナダのアニメーション制作所カナダ国立映画制作庁（NFB）とオタワ国際アニメーション映画祭について事前に調

査しておく。授業後は、広島、アヌシー、オタワの映画祭の特徴と差異について考察する。考察内容は次時の授業でザグレブ国際アニメーション映画祭の紹介の際総合的に考察する

第6回【授業内容】クロアチアとチェコのアニメーション

(映像活用授業) アニメーション史の中でクロアチアのザグレブ・フィルムとザグレブ国際アニメーション映画祭に関わる作品とチェコの代表的なアニメーション作家イジイ・トルンカの作品について

【授業外学修】中央ヨーロッパにおけるクロアチア(旧ユーゴスロビア)とチェコ(旧チェコスロバキア)の近代史(20世紀)を概観しておく。両国の歴史とアニメーション表現との関係を授業内で検証する

第7回【授業内容】ロシアのアニメーション

(映像活用授業) アニメーション史の中でロシアの代表的なアニメーション作家ロマン・カチャーノフ、エドゥアールド・ナザーロフ、ユーリ・ノルシュテイン等の作品について

【授業外学修】ロシア(旧ソビエト連邦)の近代史(第2次世界大戦後)を概観しておく。社会主義国家体制とアニメーション表現との関係を授業内で検証する

第8回【授業内容】長編作品の鑑賞(個人活動)

(映像活用授業) 第1～7回の活動を踏まえ、作品1本を鑑賞する。

【授業外学修】授業後、これまでの学修内容を踏まえ、個人で作品分析、批評をおこない、レポートをまとめる

【授業外学修】授業で取り上げるアニメーション作品は、テレビやレンタルDVDなどで鑑賞することが難しい。

授業で取り扱う映像作品はYouTubeなどの映像配信システムの中で紹介されている場合もあるので、授業で取り上げた作品や監督作品(鑑賞した作品以外のもの)を中心に多くの作品、多種に渡る作品を各自で鑑賞しておくことが重要である。(各授業回毎60～90分程度)

同時に自分独自の鑑賞視点を持てるよう、アニメーションにとどまらず映像作品がどのように分析、解釈されているかについて映画批評等を読むことを予習復習として取り組むことが望ましい。

履修上の注意/Notes

取り上げるアニメーション作品は、現在日本で普及している商業アニメーションとは異なる作品を対象とする。いわゆるディズニーや日本のテレビアニメーションのようなエンターテインメント作品を対象としないので注意すること。

映像作品に対して積極的、能動的に理解する姿勢を持てること。自分の見解を発表できるとともに他者の見解を受けとめる姿勢を持てること。遅刻をするとその時間の作品鑑賞に影響がでるため定時に出席すること。遅刻の限度時間は特に設けないが、遅れて視聴できなかった作品はYouTubeなどの映像配信システムの中で視聴し、レポートに反映させること。

人数制限(24名)がある。

オフィスアワー: 木曜日3時間目 メールアドレス: hiro1957@vc.ibaraki.ac.jp

情報端末の活用

- ・毎回レポートをPCを使用して教務情報ポータルに提出すること
- ・講義資料は授業時に印刷物を配布する 併せて事前に教務情報ポータルでも提供する
- ・課題レポートについては、教務情報ポータルを通じて提出すること

成績評価基準/Evaluation criteria

A+: アニメーション作品を通して各国の文化観や映像文化観の基本的な知識と考え方を十分に修得し、さらにアニメーション文化の多様な価値観を理解し、映像作品に対して自分の見解を持つことができている。

A: アニメーション作品を通して各国の文化観や映像文化観の基本的な知識と考え方を修得し、さらにアニメーション文化の多様な価値観を理解し、説明できている。

B: アニメーション作品を通して各国の文化観や映像文化観の基本的な知識と考え方を概ね修得し、さらにアニメーション文化の多様な価値観について説明できている。

C: アニメーション作品を通して各国の文化観や映像文化観の基本的な知識と考え方を最低限の修得をしており、さらにアニメーション文化の多様な価値観について説明できている。

D: アニメーション作品を通して各国の文化観や映像文化観の基本的な知識と考え方が修得できておらず、さらにアニメーション文化の多様な価値観について説明ができていない。

成績の評価方法/Grading

8回目後半の期末試験は行わない。
第1回～第7回の各授業での小レポート：70点（各10点×7回）
8回目授業後にまとめる個人レポート：30点

教科書/Textbook(s)

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	世界と日本のアニメーションベスト150
著者名	
出版社	ふゅーじょんぷろだくと
出版年	2003
ISBN	
教材費	

参考書2

書名	王と鳥—スタジオジブリの原点
著者名	高畑勲 叶精二ほか
出版社	大月書店
出版年	2006
ISBN	
教材費	

参考書3

書名	『話の話』の話—アニメーターの旅 ユーリー・ノルシュテイン
著者名	クレア・キッソン
出版社	未知谷
出版年	2008
ISBN	
教材費	

参考書4

書名	アートアニメーションの素晴らしき世界
著者名	
出版社	エスクアイアマガジンジャパン
出版年	2002
ISBN	
教材費	

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	◎
専門分野の学力	○
課題解決能力	○
コミュニケーション力	○
実践的英語力	
社会人としての姿勢	△
地域活性化志向	

アクティブ・ラーニング型科目

PBL科目

地域志向科目

使用言語

実務経験のある教員による授業科目

実践的教育から構成される授業科目

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB7961	ナンバリング	KB-PAA-131	科目分野	演習
開講曜日・時限	木3	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	T A	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2022年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	美術文化				
担当教員（ローマ字表記）	佐々木 忠之				
シラバス用備考	【後期】				

授業題目/Title

画像加工入門

授業の概要/Course Overview

画像加工ソフトを使って画像加工とコンピュータ・グラフィックス表現の基礎を学ぶ。フリーの画像加工ソフトウェアGIMPを使用し、オンライン授業で行う。

キーワード/Keyword(s)

GIMP、画像加工、コンピュータ・グラフィック、CG

到達目標/Learning Objectives

Webページやポスター、チラシなどに使用する画像を取込み、目的に応じて加工できる。
デジタル画像データについての基礎知識を得る。CGによる表現が出来る。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

- 第1回 ガイダンス、GIMPのインストールと基本的な説明。
- 第2回 GIMPの初歩
簡単な画像加工を通してGIMPの機能を理解する
- 第3回 画像加工1
プレゼンテーション用の画像加工を行う
- 第4回 画像データの仕組み、画像加工演習2
光の三原色とインクの三原色、画像解像度と色表現等
- 第5回 画像加工3
特殊効果、色覚障がいシミュレーション
- 第6回 画像加工演習
与えられたテーマで画像加工によりCG表現を用いた作品制作を行う
- 第7回 画像加工演習
与えられたテーマで画像加工によりCG表現を用いた作品制作を行う（続き）
- 第8回 作品発表
自分の制作した作品についてプレゼンテーションを行う

（アクティブラーニング手法）全回ともパソコンを使用した演習として行う。

（授業外学修）

画像加工ソフトの機能等について参考に出来るwebサイト等を紹介するので、毎回30分以上の授業外学習により予習及び復讐を行うこと。

課題および授業の資料等は全てteamsによりPDFファイルで配布するので、復習に利用するとともに、欠席した場合は空き時間等に閲覧し、その時間の内容を予習（復習）して次の授業に参加すること。

履修上の注意/Notes

この授業はすべて遠隔授業で行うので、自分のPCにソフトウェアをインストールして行います。

使用可能なPCはWindowsまたはMacOSXが動作し、GIMP2.10以上（この時点での最新バージョンは2.10.30）が動作するPCです。自分で使用するPCが用意できない場合は受講できません。

第1回目はインストールから行う予定ですが、当日はダウンロードに時間がかかるので、予め<https://www.gimp.org/downloads/>からダウンロードしておくこと。可能ならインストールしておいても構いません。

オフィスアワーは火曜日3講時。

授業の初めに課題の説明等を行うため、15分以上の遅刻は欠席とします。また、遅刻（15分未満）は2回で1回の欠席とします。

情報端末の活用

各自所有するPCにフリーの画像加工ソフトGIMPをインストールし、使用する。

画像データを扱うのでPC性能が低いと動作が遅くなる。Intel Core i5以上でメモリが8Gbyte以上であることが望ましい。

成績評価基準/Evaluation criteria

A+：到達目標の3点について極めて高いレベルで達成されている。

A:到達目標の3点について高いレベル以上で達成されている。

B:到達目標の3点についておおむね以上のレベルで達成されている。

C:到達目標の3点について最低限のレベル以上において達成されている。

D:到達目標の3点のうち1点以上について全く達成されていない。

成績の評価方法/Grading

課題（70%）と取り組み状況（30%）により、デジタル画像データについての基礎知識を身に付け、目的に応じた表現が出来ているかを見る。ただし、出席が規定に満たない場合は、単位を与えない。

教科書/Textbook(s)

備考	必要な資料等は主としてPDFファイルで随時配布する。 また、参考のできるWebサイトを授業の中で随時紹介する。
----	--

参考書/Reference Book(s)

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	△
専門分野の学力	○
課題解決能力	○
コミュニケーション力	○
実践的英語力	
社会人としての姿勢	△

地域活性化志向	△
---------	---

アクティブ・ラーニング型科目

○

PBL科目

--

地域志向科目

--

使用言語

日本語のみ

実務経験のある教員による授業科目

--

実践的教育から構成される授業科目

--

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB7962	ナンバリング	KB-PAA-131-COE	科目分野	演習
開講曜日・時限	木3	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	T A	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2022年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	ダンス・演劇文化				
担当教員（ローマ字表記）	田中 宏明				
シラバス用備考	【後期】				

授業題目/Title

水戸芸術館で学ぶ音楽、演劇、美術

授業の概要/Course Overview

水戸芸術館の運営全体について、活動内容やその特徴を解説する。さらに世界各国の芸術文化を簡単に紹介し、それらと連動した水戸芸術館の活動を鑑賞を通じて具体的に体験する。主に水戸芸術館の各部門の学芸員が講師として授業を行う。

キーワード/Keyword(s)

水戸芸術館、音楽、演劇、美術、自主企画、専属楽団&劇団

到達目標/Learning Objectives

1990年に開館した水戸芸術館は、今や日本を代表する文化施設の一つとなっている。芸術館独自の活動内容を知り、併せて、現在の世界的な芸術文化の状況を理解する。そして、鑑賞を通じて各々が芸術文化全体についての見聞を広め、芸術に関して自分の意見が持てることを目指す。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

第1回：ガイダンスと導入：水戸芸術館に関する説明（田中）

第2回：水戸芸術館の運営と特徴

水戸芸術館副参事による講義。日本の文化施設で唯一、水戸芸術館だけが取り入れているシステムを学び、理解する。

第3回：学外授業（水戸芸術館見学と展覧会の解説・鑑賞）

水戸芸術館美術学芸員による講義。本授業のために、普段一般に公開されていない施設も特別に見学する。

第4回：水戸芸術館音楽部門の活動

（映像活用学習）

水戸芸術館音楽学芸員による講義。芸術館で開かれる音楽会がどのようにして企画されているか、どのように運営されているかなどを学ぶ。また主に映像資料を見ながら現代音楽、芸術音楽などについての講義を受ける。

第5回：水戸芸術館演劇部門の活動

水戸芸術館演劇学芸員による講義。芸術館で上演される演劇作品について学び、演劇鑑賞についての視点を養う。

第6回：学外授業（演奏会）（田中）

第7回：学外授業（演劇）（田中）

第8回：鑑賞した展覧会、演奏会、演劇の振り返り。まとめ。（田中）

（ロールプレイ）

授業担当教員による講義。これまでの学外授業で鑑賞した内容について振り返る。演奏会と演劇において、演奏者と演者からの視点、鑑賞者からの視点がどのように共通し、異なるかを考察する。

第3・6・7回では、鑑賞のポイントを踏まえたうえで実際に美術館、音楽ホール、劇場に出向き、積極的な鑑賞活動をする。日程は「水戸芸術館ホームページ」に掲載されている開催公演の中から、10月初旬から12月初旬に開催される演奏会（複数の公演の中から選択）、演劇公演（複数日程から選択）、美術展（芸術館見学日あるいは展覧期間中の他の日）を初回授業日までに案内する。

各分野の講師や演目（学外授業）の都合上、授業計画の順と異なる場合もあるが、その際はガイダンス時に知らせる。

【授業外学修】

音楽、演劇、美術の各分野ごとの学外授業（水戸芸術館での鑑賞）に向けて、チラシから得た情報を超えた知識や鑑賞のポイントをあらかじめ各自で押さえておく。鑑賞後は、その内容を自分の言葉で第三者に伝えられるようにまとめておく。各回の授業外学修に要する時間は90分程度目安とする。

履修上の注意/Notes

教科書・参考書の購入は特になし。

水戸芸術館での見学を兼ねた、音楽、演劇、美術の各分野ごとの学外授業が、開講日時以外にある。日程は初回授業日までに案内するが、あらかじめ水戸芸術館ホームページを見て、授業期間に開催される演奏会、演劇公演、美術展の日程をチェックしておくこと。出席は必須。なお学外授業時に各部門の鑑賞チケット代金が必要となる。金額は、受講生は一般料金よりも割安な、ユース（25歳以下）チケットが適用となるため、代金の総額は5100円から5900円程度となる。

情報端末の活用

8回目にアンケートを実施する予定のため、PC、スマートフォン等を持参すること。

成績評価基準/Evaluation criteria

A+ : 90点以上100点	到達目標を十分に達成し、きわめて優れた学修成果を上げている。
A : 80点以上90点未満	到達目標を達成し、優れた学修成果を上げている。
B : 70点以上80点未満	到達目標と学修成果を概ね達成している。
C : 60点以上70点未満	合格と認められる最低限の到達目標に届いている。
D : 60点未満	到達目標に届いておらず、再履修が必要である。

成績の評価方法/Grading

音楽、演劇、美術の各部門ごとに、レポート課題（A4用紙で各1枚程度）を出題。これらの各レポートの結果（100%）により成績をつける。作品の制作者、演者が何を伝えようとしているかを感じ取り、受け取ったことをどのように文章で表現しているかを見る。ただし3分の2以上の出席がないと評価の対象とならない。出欠は毎回、カードでとる。

期末試験は実施しない。

教科書/Textbook(s)

備考	教科書：特になし。その都度プリントを配布する。
----	-------------------------

参考書/Reference Book(s)

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	◎
専門分野の学力	○
課題解決能力	◎
コミュニケーション力	◎
実践的英語力	
社会人としての姿勢	◎
地域活性化志向	◎

アクティブ・ラーニング型科目

PBL科目

地域志向科目

使用言語

実務経験のある教員による授業科目

実践的教育から構成される授業科目

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB7991	ナンバリング	KB-PAA-131	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	木2	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	A	対象年次	2年次～4年次		
開講年度	2022年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	音楽文化				
担当教員（ローマ字表記）	谷川 佳幸（Yoshiyuki TANIGAWA）				
シラバス用備考	【後期】				

授業題目/Title

オペラの世界

授業の概要/Course Overview

総合芸術と呼ばれるオペラは17世紀初頭イタリアで生まれ、芸術として磨かれると同時に、娯楽としても人気を集めます。作品の中に散りばめられた表現のための技術を知り、それをいかに発信しているのかを学びます。オペラの基本的な形から学び、近代の作品までの鑑賞の仕方を研究し、他者に伝える表現とは何かを考えます。

キーワード/Keyword(s)

オペラ、声楽技術、表現技術、台本、ラ・ボエーム、舞台語発音、演技

到達目標/Learning Objectives

作品の中に込められたメッセージを読み解くことが出来る。そのメッセージを他者に伝えるための方法を見つけることが出来る。表現者が、どこに焦点を当てているかを見抜くことが出来る。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

第1回：シラバスを用いたガイダンスと導入

（講義）

この授業の進め方。オペラが誕生するまで、オペラが本番を迎えるまでの稽古について

第2回：オペラの基本的な形について1

（映像活用学習）

ドニゼッティ作曲「ランメルモールのルチア」を中心に声楽技術の発展と表現方法について録音、映像により解説。グループで台本と音楽について意見を出し合い、代表者が発表する

第3回：オペラの基本的な形2

（映像活用学習）

「ランメルモールのルチア」を見終え、作品が伝えようとしていたこと、演奏者や演出家が焦点としていたことをグループで話し合い代表者が発表する

第4回：「ラ・ボエーム」第1幕、第2幕

（映像活用授業）

提示された視点について注意してオペラを観る それぞれ気付いたことを後でメモする

第5回：「ラ・ボエーム」第3幕、第4幕

（映像活用授業）

提示された視点について注意してオペラを観る それぞれ気付いたことを後でメモする

第6回：喜劇作品について

第2、第3回で作品で扱った「ランメルモールのルチア」と同じ作曲家ドニゼッティの「愛の妙薬」

（ディスカッション）

グループで第4回、第5回のメモをもとに、劇の中で音楽がどういう役割を果たしているか考察する。それを基に喜劇と悲劇の作品構成について話し合う。

第7回：ロマン派後期の作品について

ブッチーニ作曲「ジャンニ・スキッキ」を鑑賞し、これまでの喜劇や悲劇の作り方との違いを考える。

(講義とディスカッション)

オペラの中でのレチタティーヴォとアリアについて解説した後、グループでこの作品の分類の仕方について話し合う。

第8回：

(発表とまとめ)

前半45分では第7回、第8回で出た意見をまとめてグループで発表。後半45分にまとめ講義と質疑応答を行う、又はレポート提出とする。

第2、3回「バズ学習」各グループで議論した後、各グループの発表を行いクラス全体としての意見をまとめる

第4、5回「ミニッツペーパー」鑑賞中は演技や音に集中して表現について探る。鑑賞後に気付いたことを書き留めておく

第6、7回「ワールドカフェ」グループで一旦意見をまとめた後、他のグループの意見を聞き、再度話し合っ発表の準備をする

各回発表では、いかにしてグループの意見を明確に伝えるか、それが表現することだという意識をもって行う

授業外学習

初回に2回目以降に扱う作品について説明をするので、そのオペラに関連する作品(原作小説や、同じ作曲家の他の作品など)について授業までに読んで見たりしておく。関連用語で不明なものは調べておくこと。

舞台作品について構成や見どころを学修したら、それ以降はテレビドラマや映画などについて類似点、相違点を意識しながら鑑賞することが必要である。特別に時間を区切った学修ではなく普段の生活の中でよく注意しておくことが望ましい。週に1度は映像作品や舞台などを60分~90分注意深く鑑賞する。

履修上の注意/Notes

まず作品を受け止める方法を身に付けることから始めますが、鑑賞するだけでなく、積極的にその表現方法について話し合うことが必要です。前半で解説をして後半で鑑賞する回やディスカッションする回がありますので、遅刻をすると全体の把握が難しくなります。できる限り定時に出席すること。遅刻2回を欠席1回とする。オフィスアワーは金曜日3講時。

情報端末の活用

全ての回をTeamsを用いて行います。授業時間内に行うのでPCでもスマートフォンでも構いませんができるだけ音質の良い状態を作ってください。

成績評価基準/Evaluation criteria

A+：	90点以上100点	到達目標を十分に達成し、きわめて優れた学修成果を上げている。
A：	80点以上90点未満	到達目標を達成し、優れた学修成果を上げている。
B：	70点以上80点未満	到達目標と学修成果を概ね達成している。
C：	60点以上70点未満	合格と認められる最低限の到達目標に届いている。
D：	60点未満	到達目標に届いておらず、再履修が必要である。

成績の評価方法/Grading

最終回での発表とレポートにより、到達目標の3つの観点から評価する。それぞれ関連したことなので、各観点到個別の配点は決めず総合的に評価するが、おおよそメッセージの読み解き(30%)、他者に伝える(40%)、表現者の焦点の見抜き(30%)とする。

教科書/Textbook(s)

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	オペラ対訳ライブラリー「ラ・ボエーム」
著者名	小瀬村幸子
出版社	音楽之友社
出版年	2014
ISBN	1921073019005
教材費	1900

参考書2

書名	新イタリアオペラ史
著者名	水谷彰良
出版社	音楽之友社
出版年	2015
ISBN	9784276110410
教材費	2750

参考書3

書名	オペラ対訳ライブラリー「愛の妙薬」
著者名	坂本鉄男
出版社	音楽之友社
出版年	2014
ISBN	9784276355736
教材費	1600

参考書4

書名	オペラ対訳ライブラリー「ランメルモールのルチア」
著者名	坂本鉄男
出版社	音楽之友社
出版年	2014
ISBN	9784276355729
教材費	1500

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	○
専門分野の学力	○
課題解決能力	○
コミュニケーション力	◎
実践的英語力	
社会人としての姿勢	○
地域活性化志向	

アクティブ・ラーニング型科目

○

PBL科目

--

地域志向科目

--

使用言語

日本語

実務経験のある教員による授業科目

--

実践的教育から構成される授業科目

--

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等
--------	--	-------